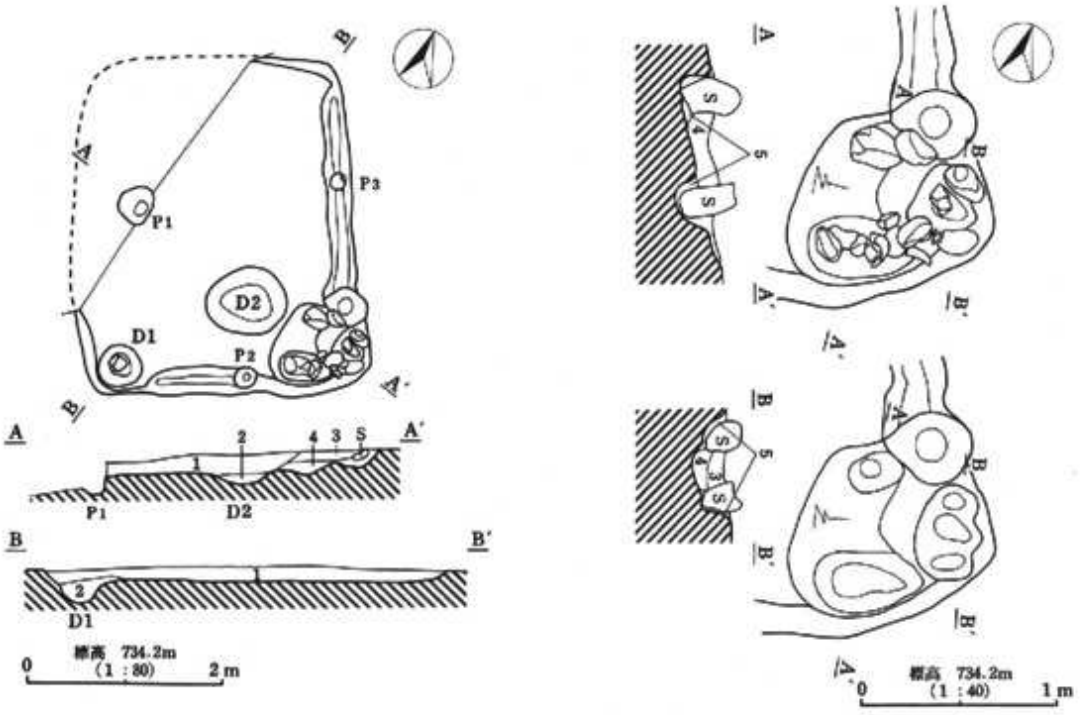
カマドは南東コーナーにあり、長さ96cm幅120cmを測り、袖には石を多用し、橙色粘土で構築している。灰・炭化物・焼土が残っていた。

壁下には周溝が南壁と東壁に巡っている。



第30図　H７号住居址実測図

H７土層説明

1　暗褐色土（10YR３／３）
　砂粒を含む。
2　暗褐色土（10YR３／３）
　砂粒を多く含む。
3　暗褐色土（10YR３／３）
　橙色（10YR６／８）粘土粒を多く含む。
4　褐色土（10YR４／４）
　灰・焼土・炭化物片を多く含む。
5　褐色土（10YR４／６）
　ローム粒子を多く含む。

写真74　H７号住居址カマド（正面より）

写真75　H７号住居址カマド（後方より）

遺物

土器が855g 出土している。

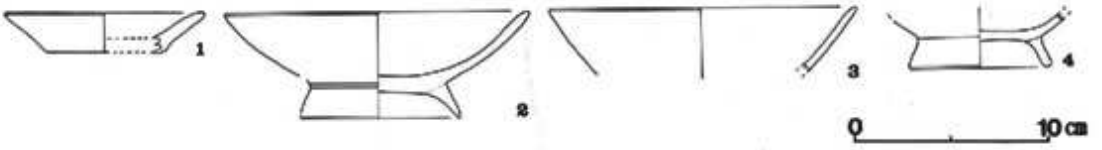
土器は土師器杯・椀・小皿・甕・小型甕、須恵器杯（1片のみ）、灰釉陶器（器種不明1片のみ）がある。

1の小皿は口縁が全体に外反する小皿の中でも小さいものであり、胎土は粉末質の細かいものである。2～4は椀で杯部内面がロクロ調整のままであり、やや脚の長い高台が付く。薄手で胎土には1mm 大の砂粒を含んでいる。

甕型土器は実測はできなかったが、2個体ある。一つは厚さ9mm と厚手で外面ナデ、内面ハケ調整され、胎土は砂質である。他は器肉8mm で外面下部へラケズリ調整のものである。

土師器椀はカマドより出土し、小皿より古い様相をもっている。

これらより時期は11世紀後半に位置づけられよう。



第31図　H7号住居址遺物実測図

写真76　H7号住居址掘り方（西より）

8）H8号住居址

遺構

1地区中央のMき－9グリットにある。長軸を東西に持ち3.64m×2.4mを測る。北にカマドを持ち少しゆがんだ長方形を呈する。削平され壁残高は18cmを残すのみである。

床面は生活面を捉えることができたが、構築土層が砂地であったため軟弱であった。

写真77　H8号住居址遺物出土状況（南より）

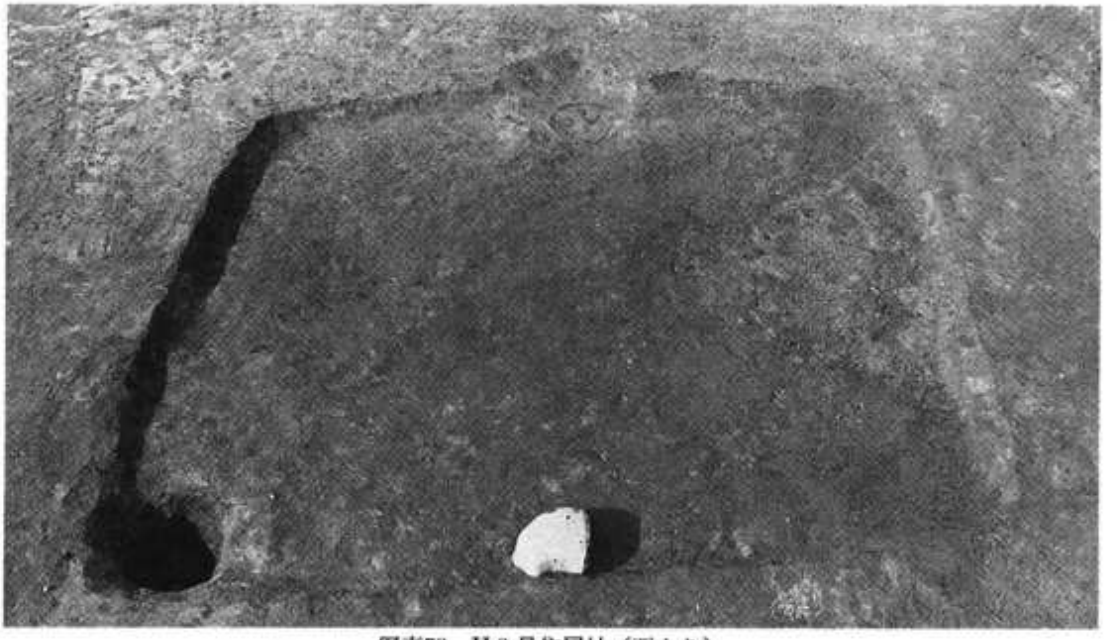
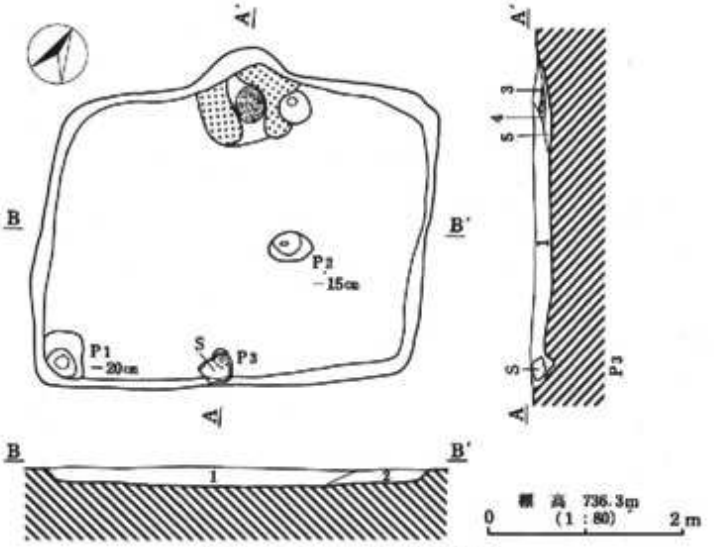


写真78　H8号住居址（西より）

掘り方はなかった。

柱穴は3個でP1は南東隅にあり、48×44cm楕円形で深さ20cmを測り、土坑であるかもしれない。P2は中央より東寄りにあり44×32cmの楕円形で深さ15cmを測る。P3は南壁下中央にある。蓋をするように石が置いてあった。



第32図　H8号住居址実測図

覆土は暗褐色土で砂質である。

カマドは北壁にあり、煙道部が張り出している。長さ100cm幅100cmを測り、灰白色粘土で構築している。焼土層が残っていた。

H8土層説明

1　暗褐色土（10YR3／3）
　　質土・砂含む。
2　暗褐色土（10YR3／3）
　　1層より、砂・小石を含む。
3　褐色土（10YR4／4）
　　灰白色粘土粒を多量に含む。
4　褐色土（7.5YR4／4）
　　焼土。
5　暗褐色土（10YR3／4）

写真79　H8号住居址カマド（南より）

写真80　H8号住居址南西隅（北より）

写真81　H8号住居址

写真82　H8号住居址小瓶

遺物

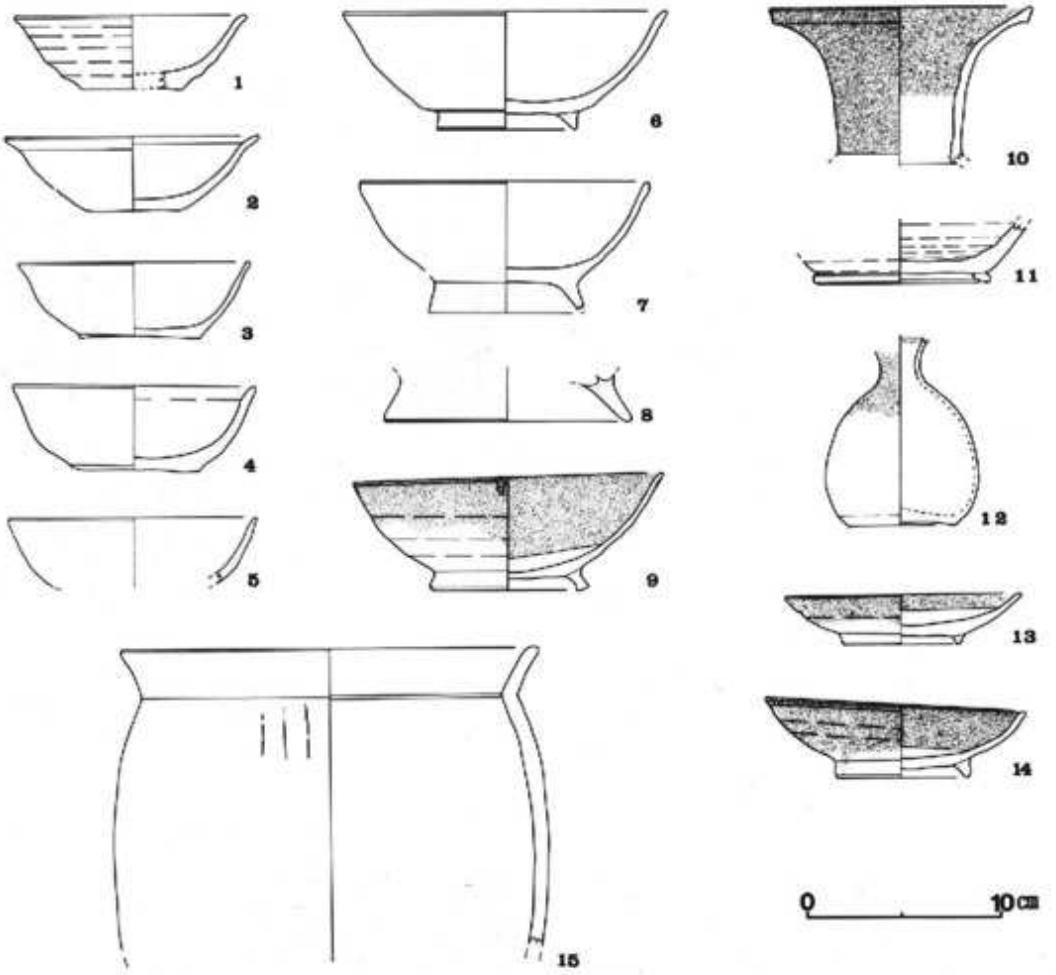
土器が1.98kg、用途不明の薄い板状の鉄製品が出土している。土器は須恵器は杯小片１あるのみで、灰釉陶器と土師器が多い。

土師器杯型土器は薄手で底径の小さいもので、内面の調整もロクロ調整のみの杯である。４は他と異なり厚く調整も丁寧である。椀型土器も内面がロクロ調整のままである。薄手で高台部断面形が三角形を呈するものと、脚が長い長脚のものがある。杯類の胎土は砂粒を含むものである。

甕型土器は武蔵甕が見られず器肉が厚く、外面ヘラナデ調整の砂質のものである。

灰釉陶器は輪花椀・皿・長頸壺・小瓶とセットで出ている。灰釉陶器椀・皿類の高台は前代のように「三日月型高台」ではなく、丸味を帯びた13・14、角張った９になっている。胎土も緻密である。

これらより時期は10世紀後半に位置づけられる。



第33図　Ｈ８号住居址出土遺物実測図

9）H9号住居址

遺構

1地区南側のQう－6グリットにある。

東西に長軸を持ち、大きさは5.0m×4.88mを測る。壁残高は32cmあり、良好な状態で残っていた。主軸はやや西よりの、N－10°－Wを測る。カマドは東壁南寄りにある。

床面は堅く締まっており、ことに中央部が締まっている。北壁中央下の床下からは旧カマドの跡が検出されている。北壁にも煙道張り出しが残っている。長さ120cm幅96cm深さ16cmを測る。

柱穴は7個あり、P1～P5が生活面でP6･7は掘り方で検出した。P1～P4が主柱穴で南側の主柱穴が南壁にある。径60cmの円形で深さ44～84cmを測る。

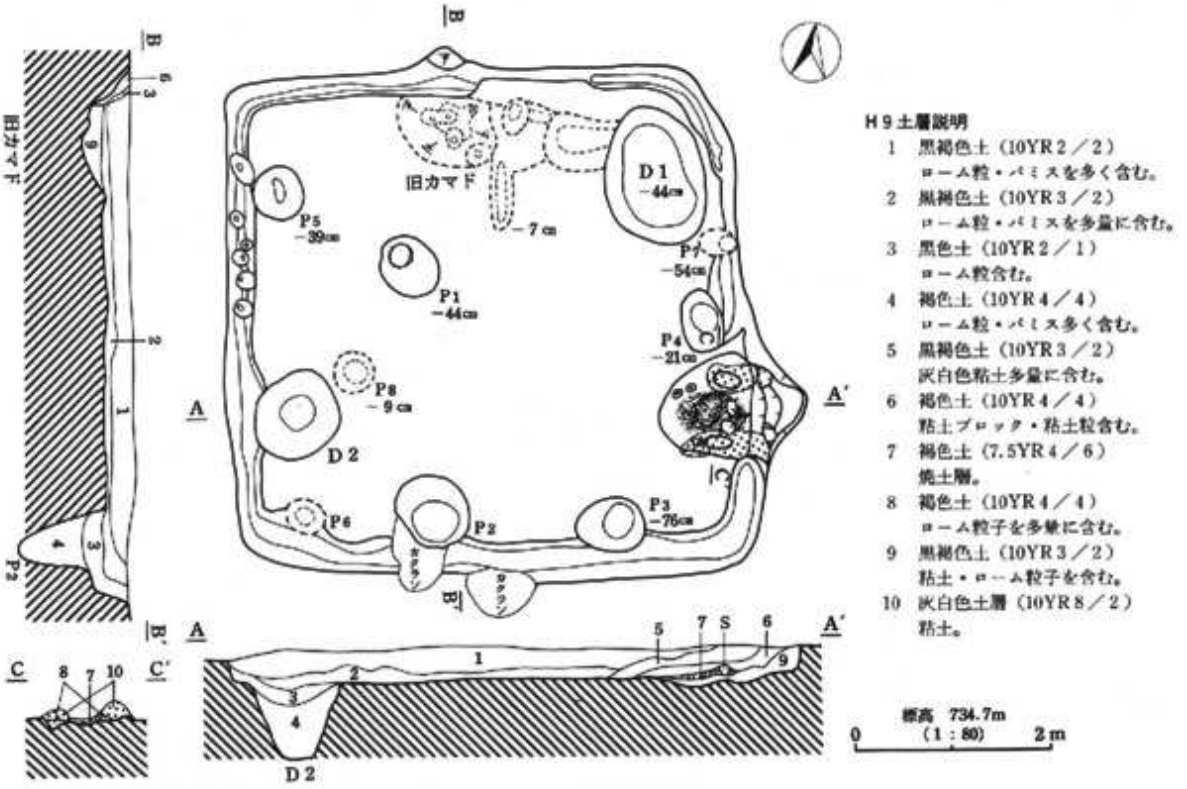
写真83　H9号住居址（南より）

写真84　H9号住居址掘り方（南より）

土坑は北東隅にＤ１があり、長径140×短径104cm×深さ44cmを測る。Ｄ２は南西にあり、径92cmの円形で深さ96cmを測る。

覆土は黒褐色土でローム・パミスを含む。

カマドは東壁の南側中央にあたる位置にある。壁より40cm程張り出して、長さ152cm、幅108cmを測る。袖が残り、灰白色粘土で構築していた。



第34図　Ｈ９号住居址実測図

写真85　Ｈ９号住居址カマド（西より）

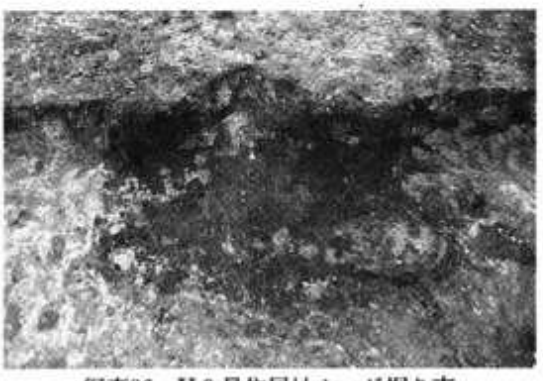


写真86　Ｈ９号住居址カマド掘り方

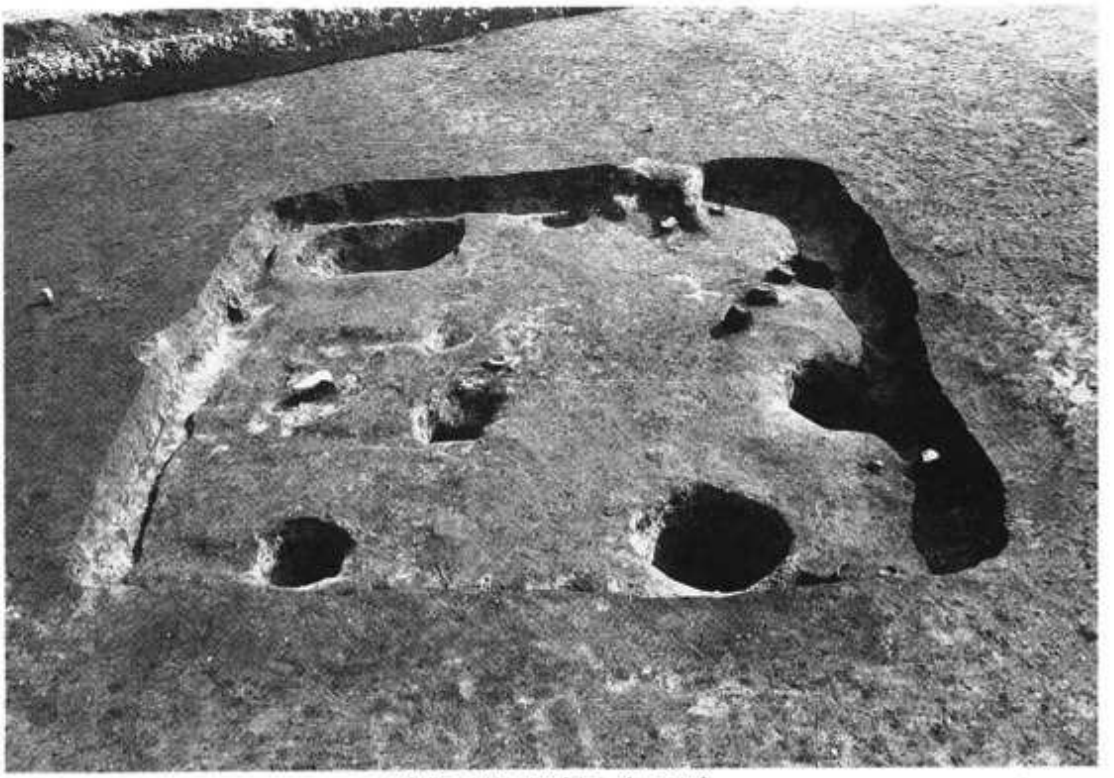


写真87　H９号住居址（西より）

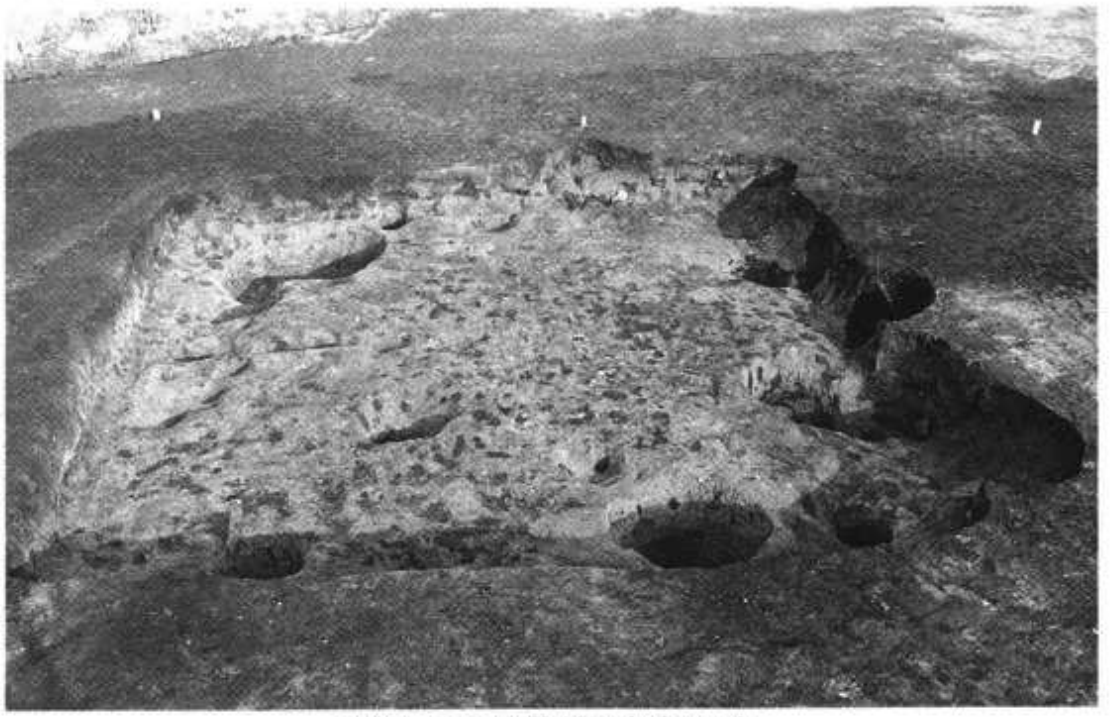
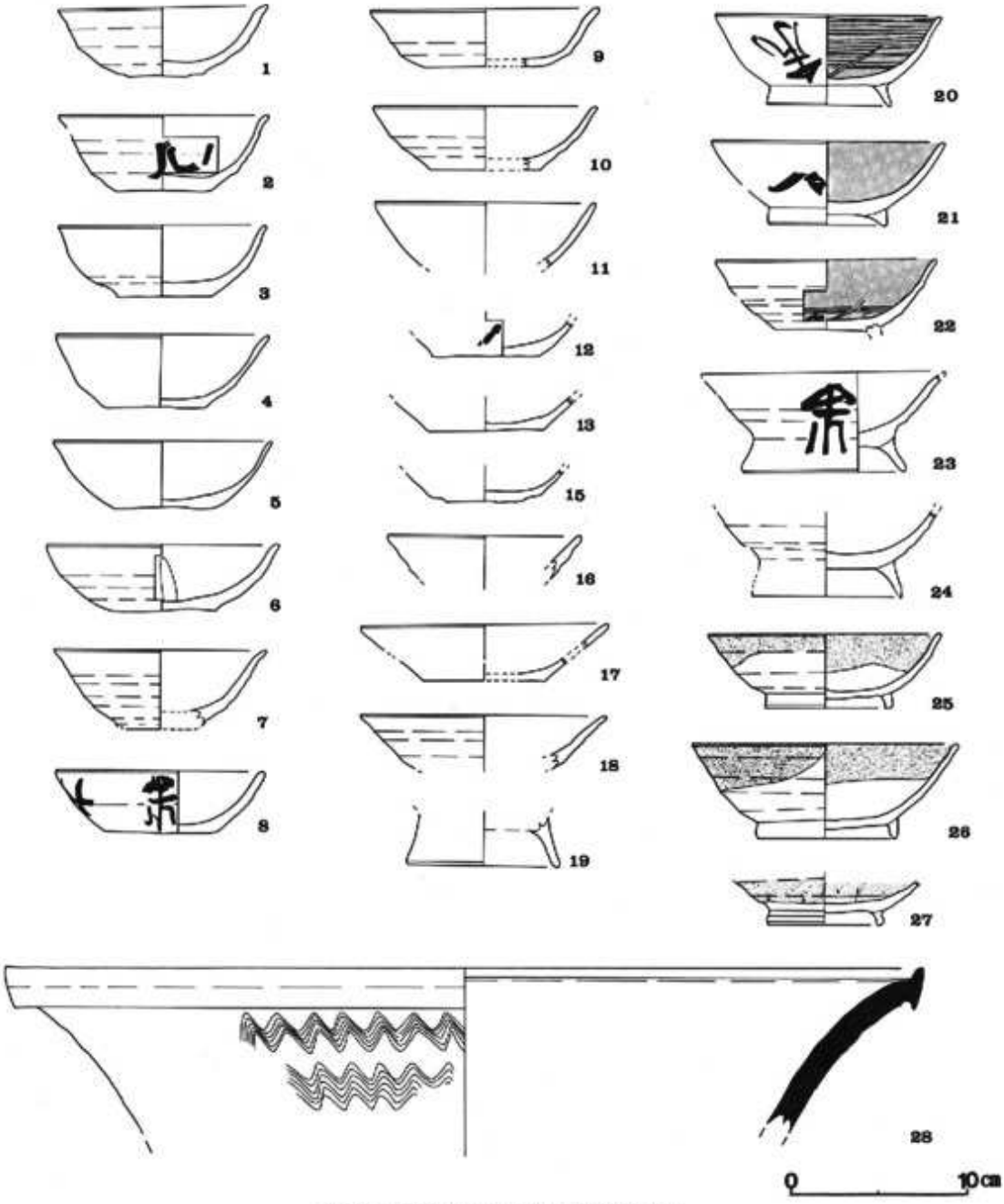


写真88　H９号住居址掘り方（西より）

遺物



第35図　H 9 号住居址出土遺物実測図

土器類が4.74kgを出土している。また墨書が多く、６個体ある。図示できなっかったが須恵器の底部尖底の鉢型土器がＨ６住居址と接合関係を持っている。破片が流れ込んだのであろうか。土師器杯が多く、薄手で小さく16個体実測される。内面の調整はロクロ調整のままで、ミガキ等は施されない。17のように口縁が直線的に外傾して開く器形もある。椀は２種ある。内面ミガキ黒色処理され、20・22は暗文様にミガキが施される。他は内面がロクロ横ナデのままのもので、高台は長脚となる。胎土は細かい砂粒を含む。

甕は実測個体はないが、カマドから縦方向に刷毛目を持つ厚手のもの、Ｄ１からはヘラケズリされるやはり厚手のものがある。

須恵器は杯片２、平行たたき目の大甕がある。鉢は先述した。

灰釉陶器は椀・広口瓶がある。椀は漬け掛けで高台部は27が三日月型をするが26は丸味を帯びたものである。

墨書は同じ「[illegible]」が８・20･23の杯と椀にある。８は「大」の字も書かれている。２・21は判読不明である。

これらより10世紀後半の時期に位置づけられよう。

10）H10号住居址

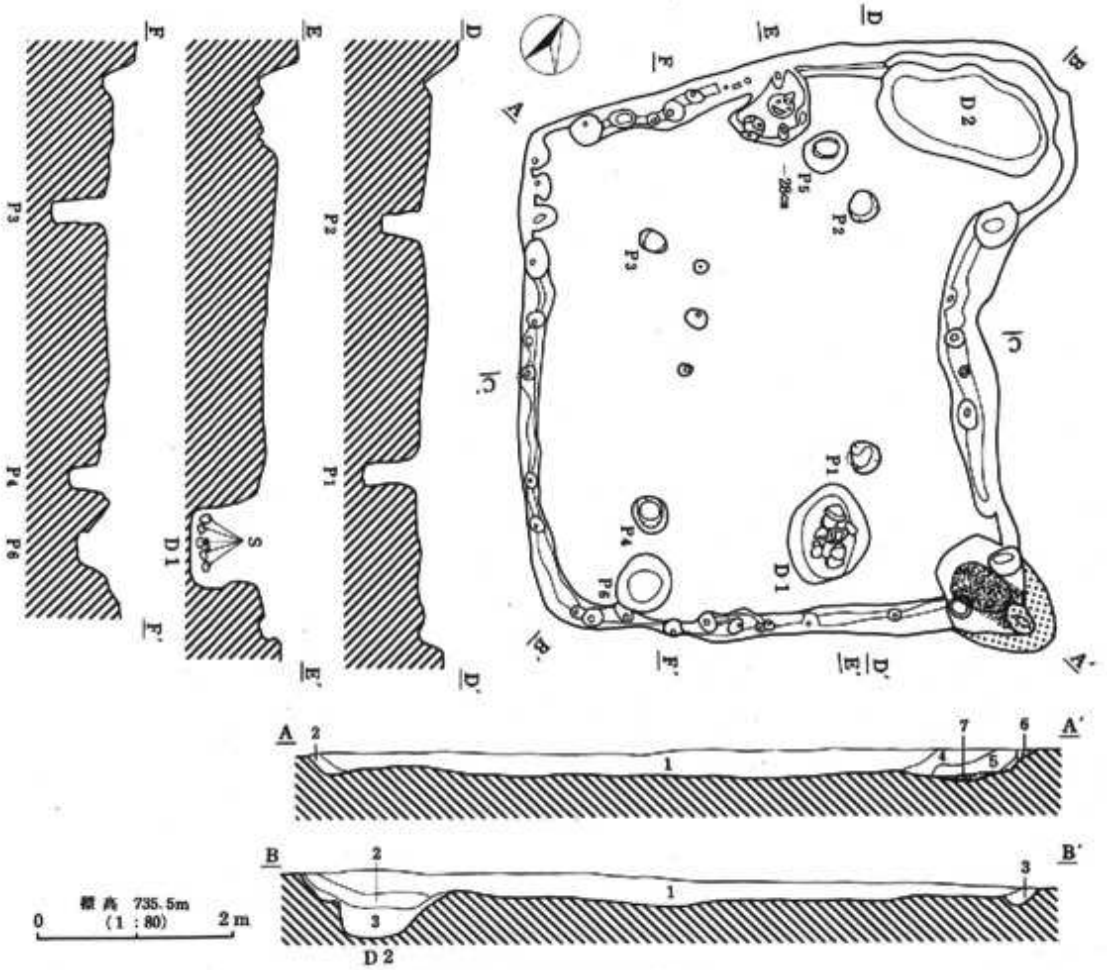
遺構

Ⅰ地区南側Ｕう－３グリットにある。長軸を南北に持ち5.6m×4.56mを測る。カマドと土坑が張り出し長方形の東側両端が飛び出ている変わった形態の住居址である。壁残高は20cmを測る。

床面はあまり締まっていない。掘り方はなく、タタキの床である。

写真89　H10号住居址（西より）

写真90　H10号住居址掘り方（西より）



第36図　H10号住居址実測図

写真91　H10号住居址掘り方（南より）

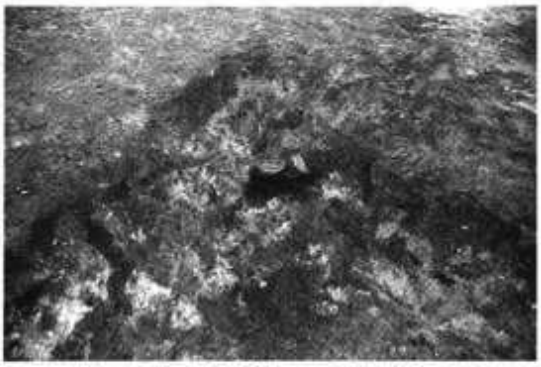


写真92　H10号住居址カマド（正面より）

写真93　H10号住居址D2号土坑（南より）

写真94　DI号土坑（西より）

写真95　DI号土坑（西より）

柱穴はP1～P4が主柱穴であり、間口2m奥行き2.4mで中央に配される。柱穴は径28～32cm、深さ40～56cmを測る。その他にP5が北東に、P6が南西にある。周溝が巡っているが周溝内にもピットが多数ある。

土坑は南東のカマドの西にD1、北東にD2がある。D1は100×84×深さ72cmの楕円形を呈し、底面に多数の石が入っていた。D2は180×100×深さ44cmの楕円形を呈する大きい土坑である。

覆土は黒色土で小石を含んでいる。

カマドは南東コーナーにあって、袖等は残っておらず、煙道部下面ににぶい黄褐色粘土が張られていた。焼土層が残っていた。長さ136cm×幅98cmを測る。

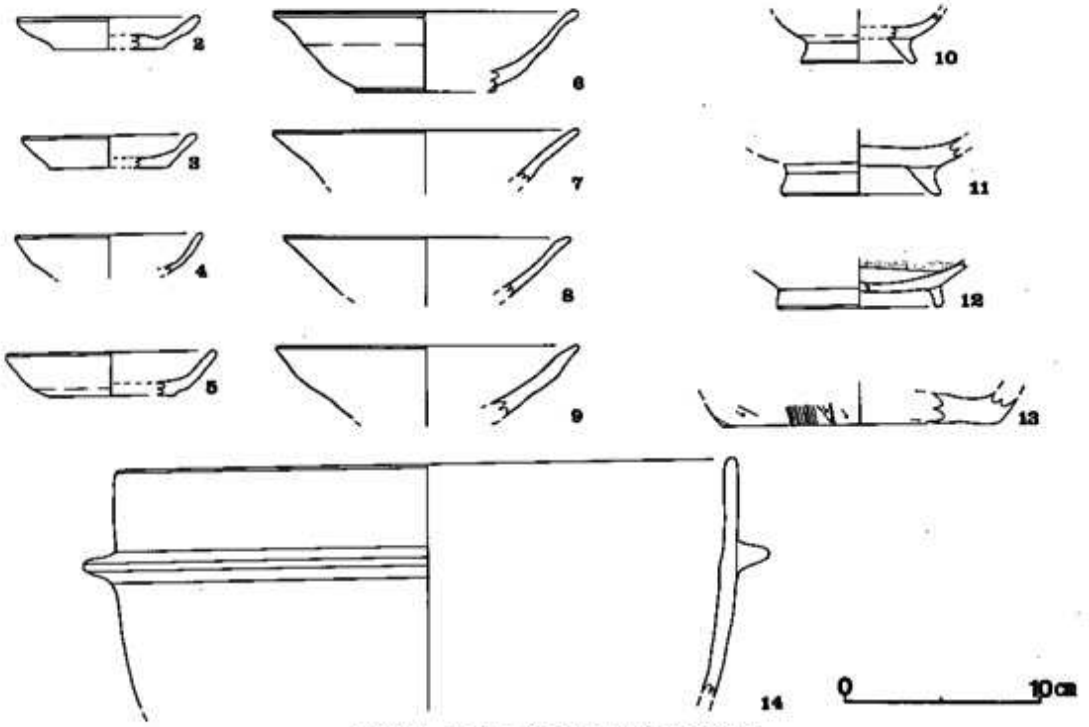
H10土層説明

1　黒色土層（10YR 2／1）
　ローム粒・小石多く含む。パミス粒含む。粘質。
2　黒色土（10YR1.7／1）
　パミス・小石・ローム粒含む。
3　暗褐色土層（10YR 3／3）
　ローム粒子を多量に含む。パミス・小石含む。

H10カマド土層説明

4　黒色土（10YR 2／2）
　にぶい黄褐色粘土粒を多量に含む。小石・パミス・ローム粒子含む。
5　黒褐色土（10YR 3／2）
　粘土ブロック・炭化物片・焼土粒子多く含む。
6　にぶい黄褐色土（10YR 5／3）
　粘土層。
7　焼土層。赤褐色土（5YR 4／8）

遺物



第37図　H10号住居址出土遺物実測図

土器1.96kgと砥石（凝灰岩製）が出土している。土器は土師質杯・椀・小皿、羽釜、甕がある。須恵器は杯小片、杯蓋片・平行タタキ目の甕片がある。灰釉陶器は実測した椀の底部がある。

土師器杯は大きく内面ロクロ調整のままのものである。椀も同様である。胎土は粉末質で細かいものである。2・3は端部が肥厚する。ロクロ調整される。甕は厚手で口縁部が少し折れるだけのものである。胴部外面は縦方向のヘラケズリがなされる。胎土は密で細かい石英粒を多く含む。羽釜は口縁から4cm下がった位置に鍔が付いている。胎土は細かい石英粒を含む密なものである。

須恵器はいずれも小破片で甕を除いて混入品と思われる。

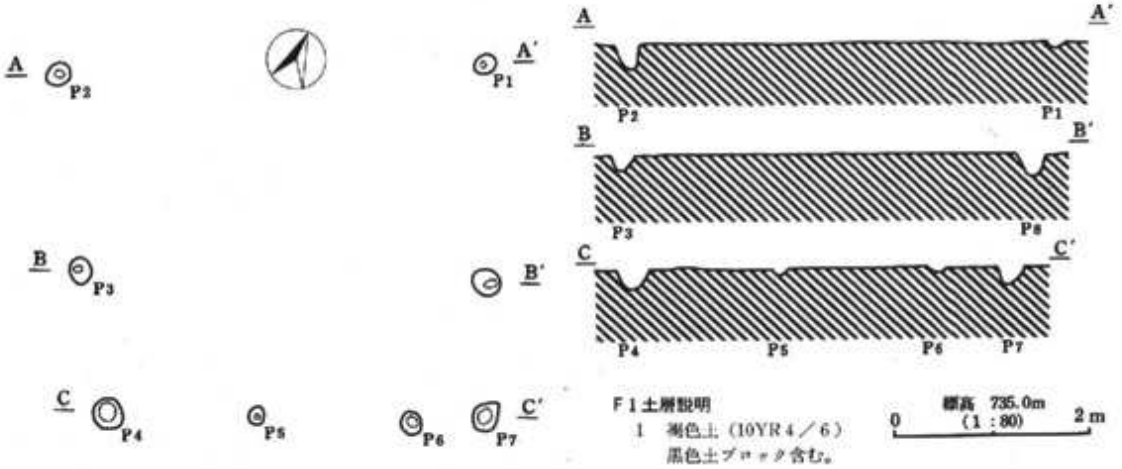
これらより時期は12世紀を前半であると思われる。

2．掘立柱建物址

1）F１号掘立柱建物址

Ｉ地区中央Ｑえ－４グリットにある。3.6×3.6m の方形配列される。桁行き３間×梁行き２間であるが、北側は間に柱がなく開いている。

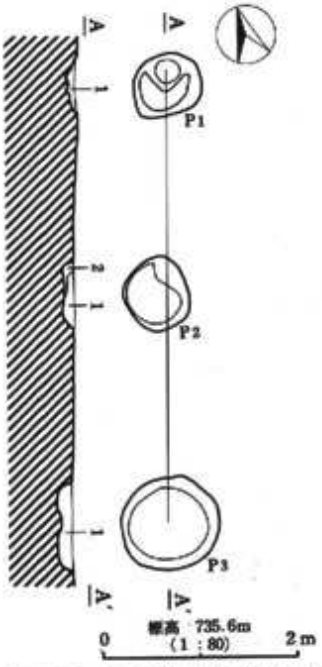
遺物は出土していない。



第38図　F１号掘立柱建物址実測図

写真96　F１号掘立柱建物址（西より）

2）F２号掘立柱建物址



第39図　F２号掘立柱建物址実測図

F２土層説明
1　黒褐色土（10YR２／２）
　ローム粒子を含む。
2　黄褐色土（10YR５／８）
　ローム主体。

写真97　F２号掘立柱建物址

Ｉ地区南側 H10の北側のＵえ－１にある。西側は区域外で検出できなかった。２間で4.8mの規模である。深さは16cmと浅い。

遺物はない。

3、土坑

1）D1～D6号土坑

D1号土坑　南側のPく－10グリットあり、長径172cm短径76cm深さ14cmの楕円形を呈する土坑である。覆土は黒褐色土である。

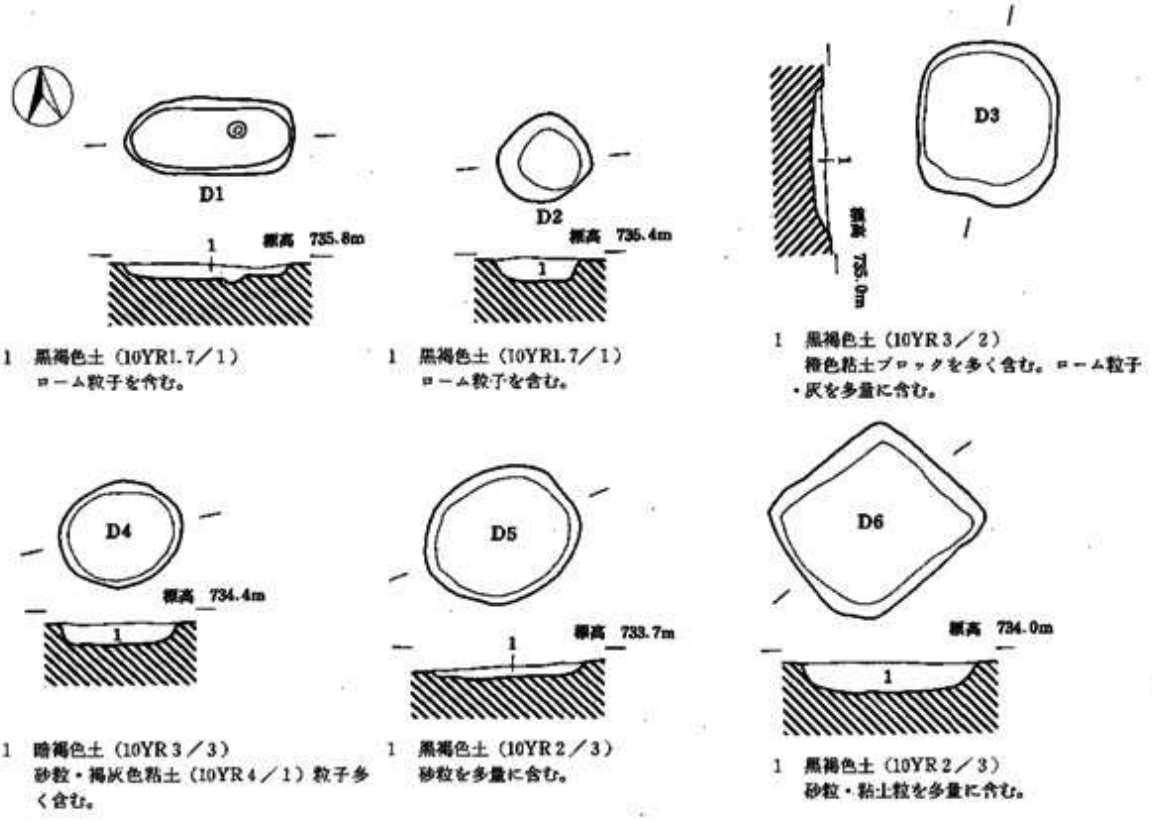
D2号土坑　中央南側のQえ－8グリットにある。不整円形で径92cm深さ24cmを測る。覆土は黒褐色土である。

D3号土坑　中央南側のQう－5にある。160×140cmの隅丸方形のもので、深さは12cmである。覆土は黒褐色土で、粘土ブロック・灰を多量に含む。

D4号土坑　中央のQく－1にあり長径144cmの円形に近い楕円形である。深さは20cmを測る。覆土は暗褐色土で、砂粒・褐色粘土を含む。

D5号土坑　中央北側のNあ－9グリットにある。長径152cm短径132cmの楕円形を呈する。深さ10cmである。覆土は黒褐色土で砂粒を多量に含んでいる。

D6号土坑　北側中央のNあ－6グリットある。180×156cmゆがんだ方形の土坑である。覆土は黒褐色土で砂粒・粘土粒子を含んでいる。



第40図　曽根新城遺跡Ⅰ地区土坑実測図

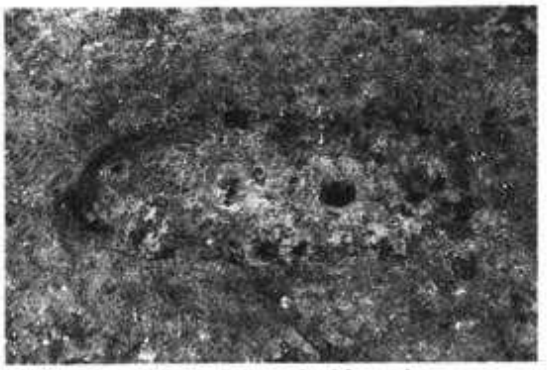


写真98　DI号土坑（南より）

写真99　D3号土坑（東より）

写真100　D4号土坑（東より）

写真101　D5号土坑（北より）

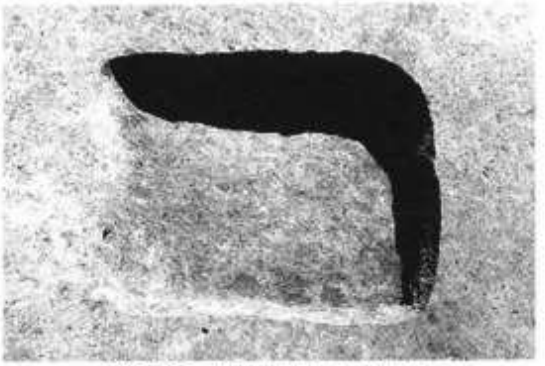


写真102　D6号土坑（北より）

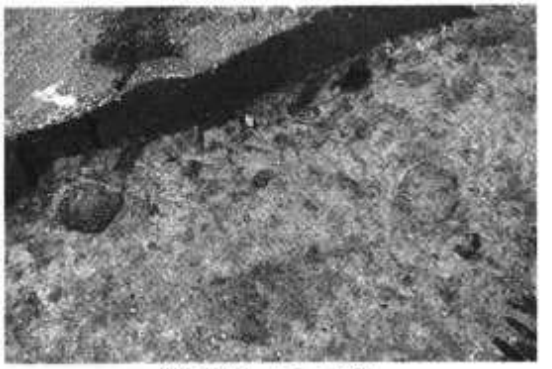


写真103　P1・P2

4、ピット

調査区北側H1の東にP1・P2の2個、少し南にP3～P6の4個が東西に並んでいる。

P1　径30cm深さ12cm　暗褐色土（10YR3／2）Jえ－10

P2　径40cm深さ16cm　暗褐色土（10YR3／2）Jえ－10

P3　径42cm深さ16cm　暗褐色土（10YR3／4）Nい－4

P4　径40cm深さ14cm　暗褐色土（10YR3／4）Nい－4

P5　径36cm深さ26cm　暗褐色土（10YR3／4）Nい－4

P6　径48cm深さ22cm　暗褐色土（10YR3／4）Nい－4

5、溝状遺構

1）M1号溝状遺構

I地区北東の北西から南東にかけて流れ、北端で幅93cm深さ22cm、南で幅2.4m深さ60cmの溝がある。これはV地区の調査で北東方向に向かい、また曲がって、蟹沢の田切りまで囲っていることがわかった。

写真104　M1号溝状遺構土層断面（南側・西より）

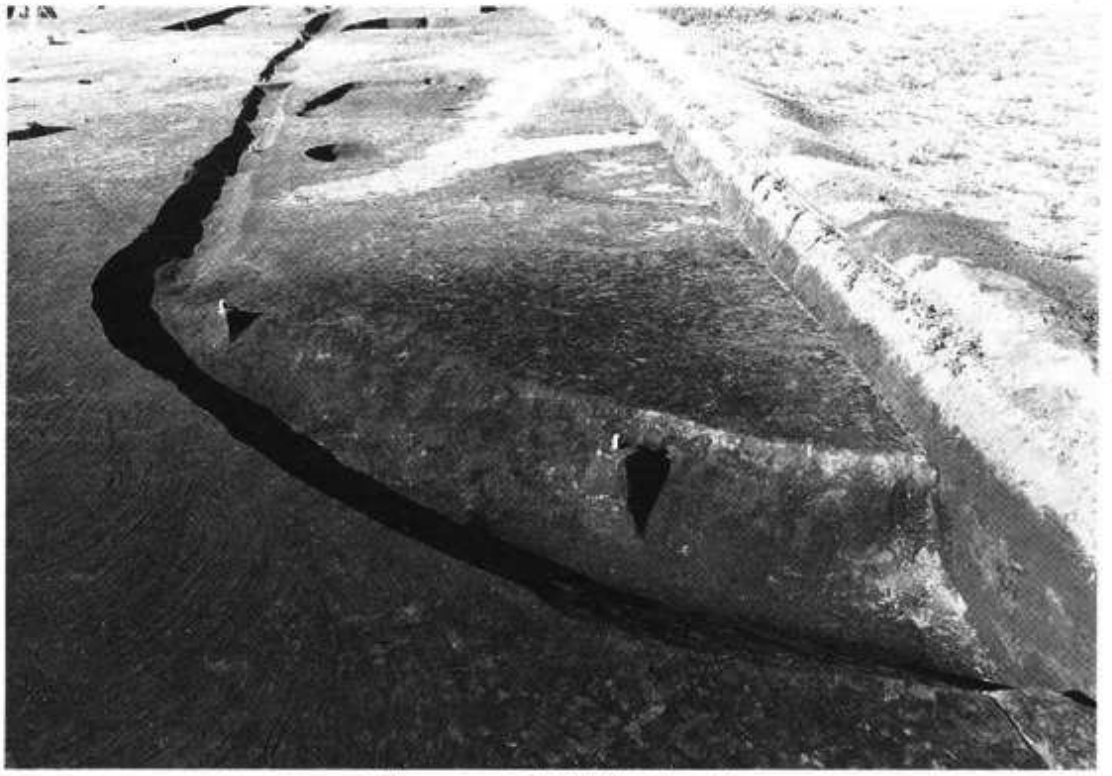
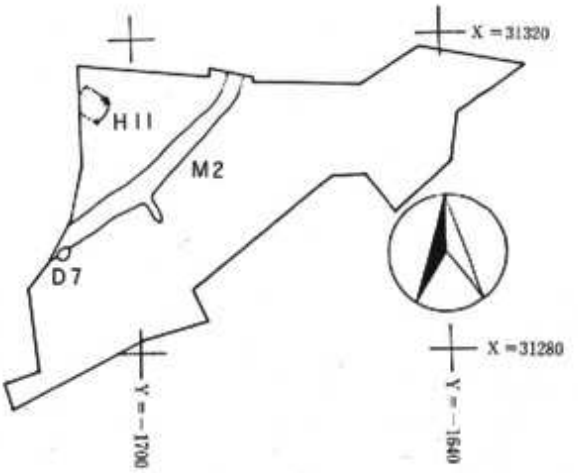


写真105　M1号溝状遺構（南より）

曽根新城遺跡II地区



第41図　曽根新城遺跡II地区（1：1,000）

写真106　曽根新城遺跡II地区

第２節　曽根新城遺跡Ⅱ地区

1、竪穴住居址

1）H11号住居址

遺構

Ⅱ地区が今回の調査の西端にあたるが、その北西端にある。北西から西半分は田切りに接して、崩壊している。出土位置はⅡBか－３グリットにある。

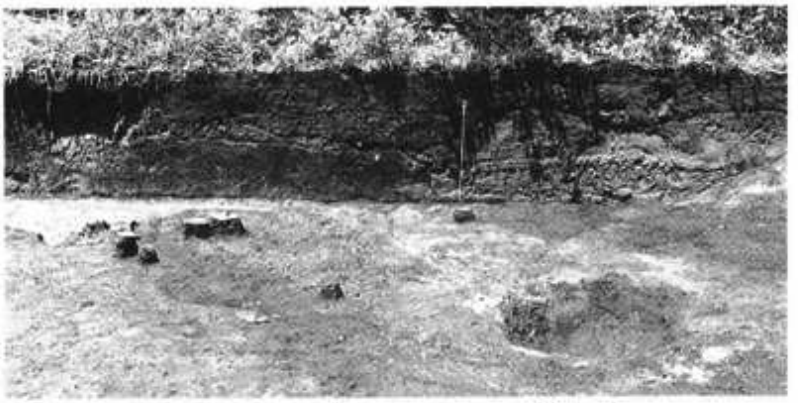
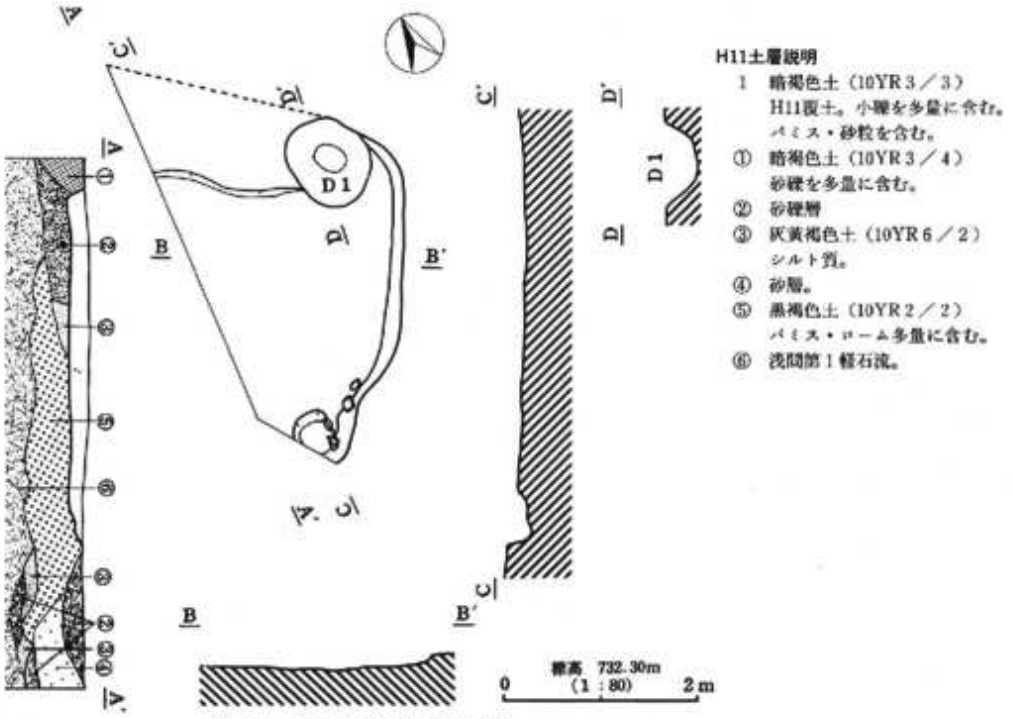


写真107　H11号住居址セクション（東より）

北側のプランが不明確ではあるが、南北推定で3.52mを測る。壁残高は16cmを測る。主軸方位はN-30°－Eで東に傾いている。カマドは南東

写真108　H11号住居址（北より）



第42図　H11号住居址実測図

写真109　H11号住居址カマド

写真110　H11号住居址

コーナーにある。

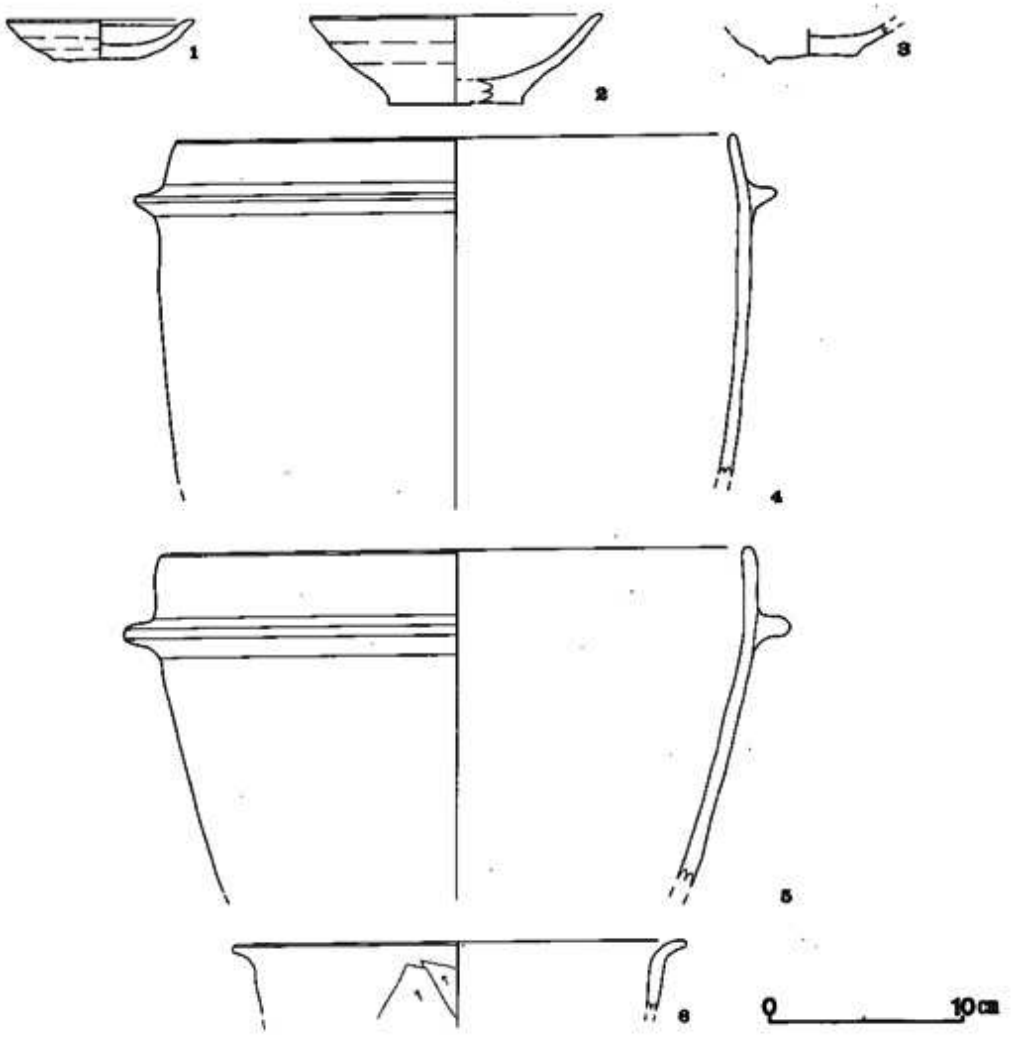
床面は図に示したように、浅間の第一軽石層の上に砂礫層などが二次堆積し、その上に構築しているため、砂質で明確な床面を捉えることは困難であった。掘り方はない。柱穴は検出されなかった。北東に円形のＤ１があり径88cm深さ28cmを測る。覆土は暗褐色土である。カマドは南東コーナーにあり、長さ1.2m 幅40cmを測り、袖には石を利用した痕跡がみられた。

遺物

土器が1.8kg出土している。

土器は土師質の杯・小皿、羽釜、甕がある。須恵器は大甕の大きく外反する口辺片１と灰釉陶器短頸壺肩部片が出土している。

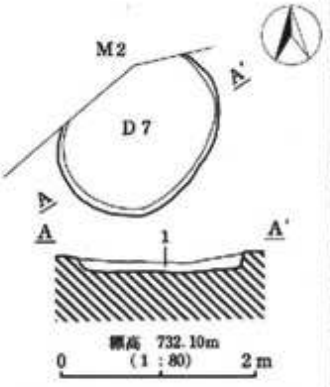
小皿は厚手で口縁部が全体に内湾して外傾する。杯は底部が厚く、口縁はやや内湾して開く。羽釜は細かい石英粒を含む緻密な胎土で、焼成も良い。Ｈ１・２号住居址の土器と同様の時期である。



第43図　H11号住居址出土遺物実測図

2、土坑

1）D７号土坑



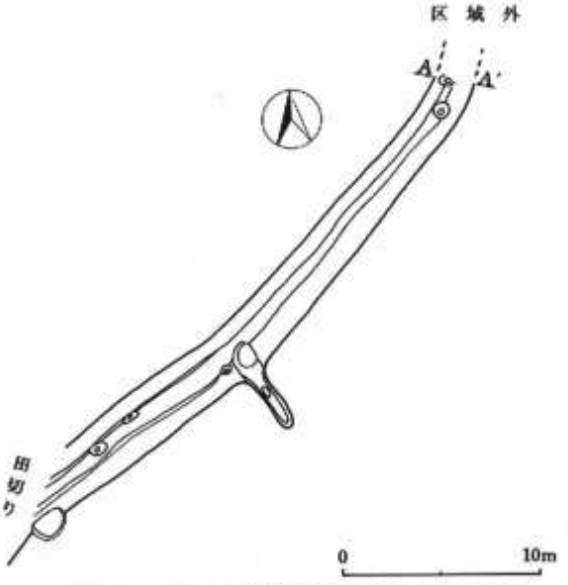
第44図　D７号土坑実測図

D７土層説明

1　黒褐色土（10YR３／２）
　ローム粒・パミス粒多く含む。

写真111　D７号土坑（北より）

D７号土坑はII地区西端の中央のIIBけ－７にある。M２号溝状遺構に北西を切られている。長径1.8m 短径1.4m の楕円形を呈し、深さ16cmの土坑である。遺物はない。



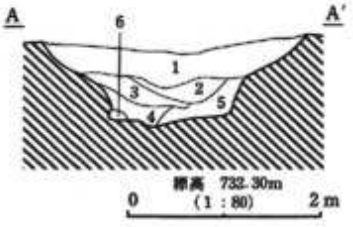
第45図　M２号溝状遺構実測図（１：400）

M２土層説明

1　黒褐色土（10YR２／２）
　暗褐色土（10YR３／４）ブロック・パミス・ローム粒含む。
　砂質。
2　１層と砂礫の混合層。
3　１層と似る。
4　黒褐色土（10YR３／２）
　ローム粒・パミス粒多量に含む。
5　褐色土（10YR４／４）
　ローム主体。小礫を多く含む。
6　黒褐色土（10YR２／２）
　ローム粒子多量に含む。

3、溝状遺構

1）M２号溝状遺構



第46図　M２号溝状遺構実測図

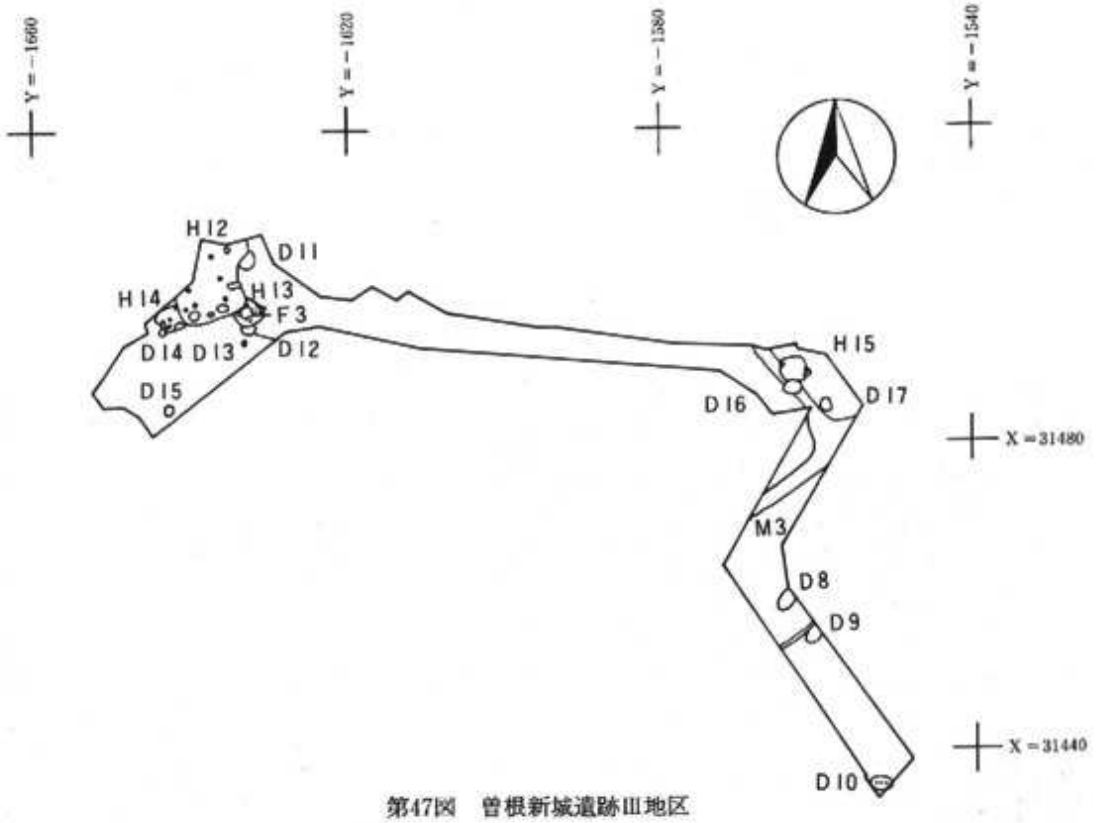
Ⅱ地区の北西を北から南西にカーブしながら溝が走っている。北端で幅2.64m深さ72cmを測る。断面形は箱形を呈する。該当する遺物はないが曽根新城ⅠからⅥ地区に見られたM１・M２・M５と同様であり、平安時代中頃より前に設けられた人為的な溝であると考えられる。曽根新城という呼称のなどと関連するかもしれない。遺構地点の調査がなされなされないまま破壊されたので明らかにはできないが、この溝によって台地と切断され曲輪が形成された可能性もある。

写真112　M２号溝状遺構土層断面（南より）

写真113　M２号溝状遺構（西より）

写真114　M２号溝状遺構（東より）

曽根新城遺跡Ⅲ地区



第47図　曽根新城遺跡Ⅲ地区

写真117　曽根新城遺跡Ⅲ地区北西地点（南東より）

第３節　曽根新城遺跡Ⅲ地区

１、竪穴住居址

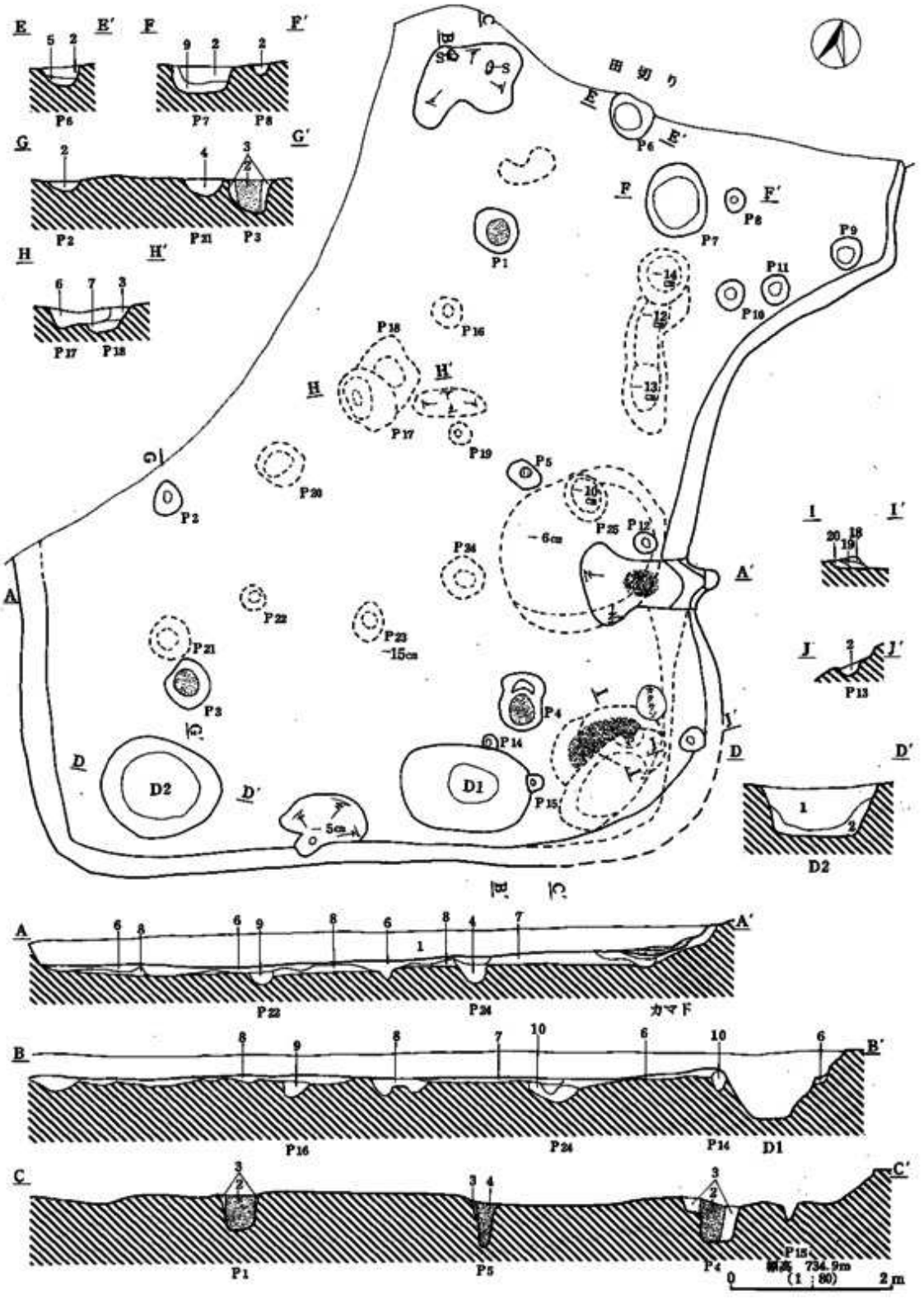
１）H12号住居址

遺構

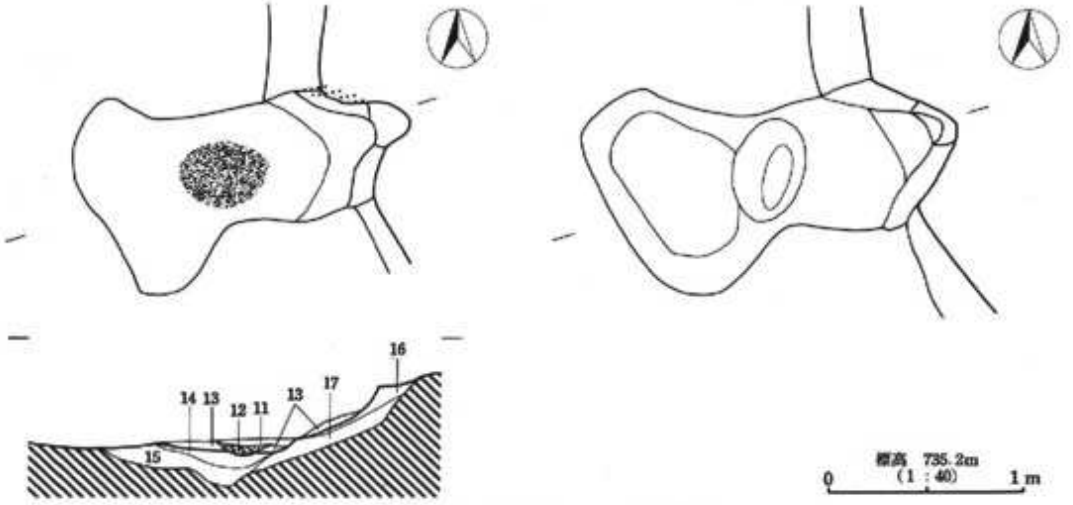
曽根新城遺跡Ⅰ地区の北東にあり、Ⅰ地区のＨ１・Ｈ２と同様の曲屋形態をしている。Ⅲ地区では北西端のＩけ－４グリットにある。

写真116　H12号住居址（西より）

写真117　H12号住居址（南より）



第48図　H12号住居址実測図



第49図　H12号住居址カマド実測図

H12土層説明

1　黒色土（10YR 2／1）小石を多量に含む。
2　黒褐色土（10YR 2／2）柱痕。しまりなし。小石含む。
3　暗褐色土（10YR 3／4）ロームブロック・黒色土・黒褐色土混合する。
4　暗褐色土（10YR 3／3）柱痕。ローム粒子含む。
5　黒色土（10YR 2／1）
6　黒褐色土（10YR 2／3）ローム・ロームブロック含む。しまりあり。貼り床。
7　暗褐色土（10YR 3／3）パミス多い。しまりあり。
8　暗褐色土（10YR 3／4）ローム粒子多く含む。
9　褐色土（10YR 4／4）黒色土含む。
10　黒褐色土（10YR 2／3）ローム粒子含む。
11　灰黄褐色土（10YR 6／2）灰層。
12　にぶい赤褐色（5YR 4／4）焼土層。
13　褐色土（7.5YR 4／6）灰と焼土混合層。
14　暗赤褐色土（5YR 3／2）焼け込んだ層。
15　黒褐色土（7.5YR 3／1）小石を含む。
16　灰褐色土（7.5YR 6／2）焼け込んでいる。
17　黒褐色土（10YR 3／1）灰褐色土を含む。
18　にぶい赤褐色土（5YR 4／4）焼土層。
19　暗褐色土（10YR 3／3 シルト質土。灰・ローム含む。
20　黒褐色土（10YR 2／2）
灰黄褐色ブロック含む。

北側は田切りにより崩れてないが、残る範囲では長軸（南北）10.4m×短軸8.0mを測り、北東に張り出しをもっている。張り出し部の幅はわからないが、東に2.8m延びている。主軸方位はN－20°－Wを測る。南東でH13号住居址、南西でH14号住居址、北東のちょうど張り出しがある地点で、D11号土坑を切っている。カマドは東壁南寄りに設けられる。

床面は締まっており、ロームブロックを含む黒褐色土で貼り床されていた。床下はことに掘り込まれているところはない。ただカマドの前面には径2.0m深さ8cmの土坑状の円形の掘り込みがあり、貼り床されていた。柱穴は生活面で15個検出され、P1からP5が主柱穴である。P2が12cmと浅いが、他は深さ40から60cmを測る。径は40～60cmで円形である。掘り方からも10個の柱穴が検出されている。

写真118　北中央の焼けた床面

写真119　12号住居址カマド掘り方

土坑は南東にＤ１、南西隅にＤ２がある。Ｄ１は長径160cm短径104cm深さ44cmを測る楕円形である。Ｄ２は長径148cm短径124cmの楕円形で深さ60cmを測る。

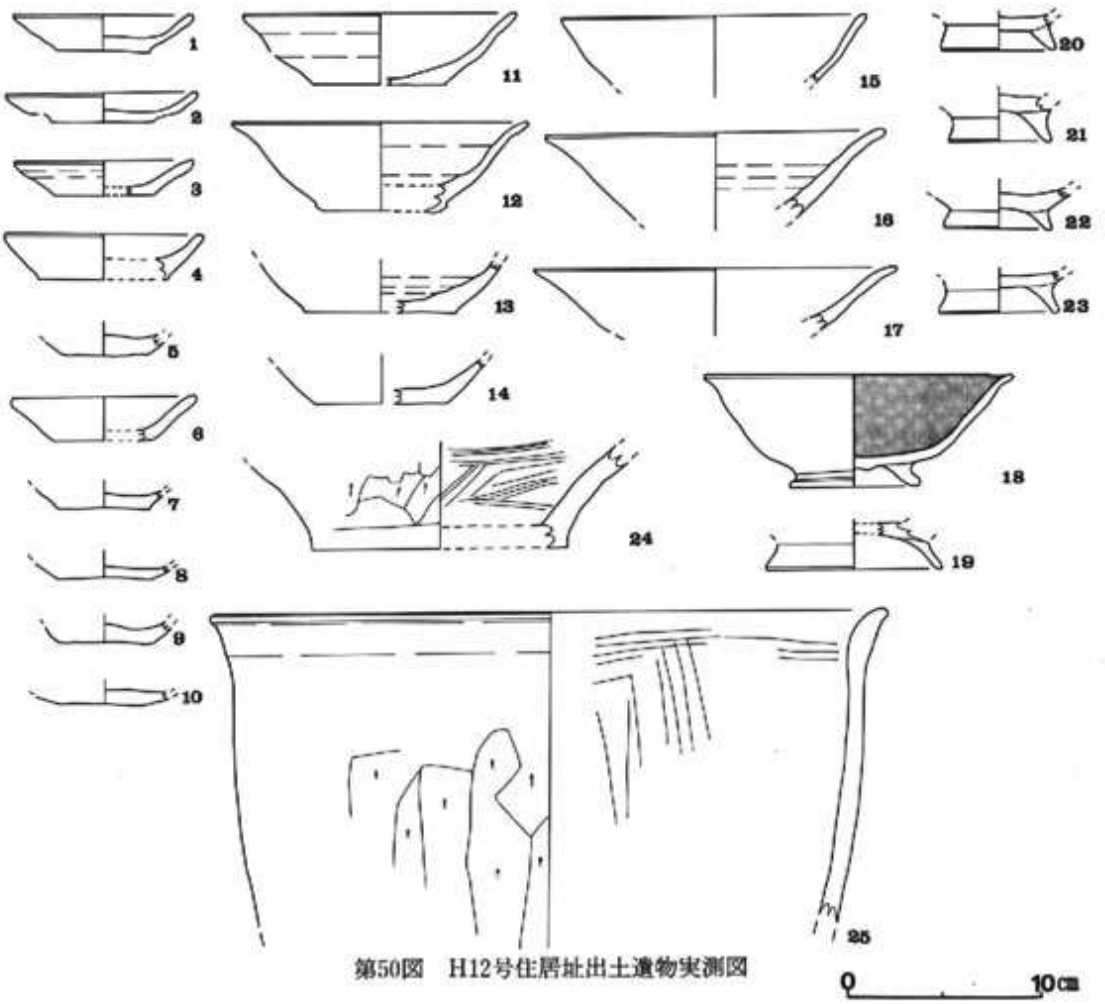
覆土は黒褐色土で小石を含むものである。

カマドは東壁南寄りにあり、天井部・袖部はなく、火床部が残る。長さ160cm幅112cmを測る。煙道が60cm程突き出ている。南東コーナーに床下より、旧カマドの焼土跡が検出された。北の中央床面からは、幅56cmの範囲で床が焼け、中央にやや窪んでおり、焼け石も範囲内にあり、上部にカマドを設置した痕跡かと推測された。

遺物

土器が4.82kg出土している。土師質の杯・椀・小皿が多く、須恵器は杯類はなく、長頸壺片や厚く、外面に平行タタキ目の施される大甕の破片がある。灰釉陶器破片がある。

主体は土師質の小皿・杯類である。粉末質の胎土、小皿の底径がＨ１・２住のものと比べ、やや大きく、器高も低いことから、少し新しい時期が設定され、12世紀代の年代が考えられる。



第50図　H12号住居址出土遺物実測図

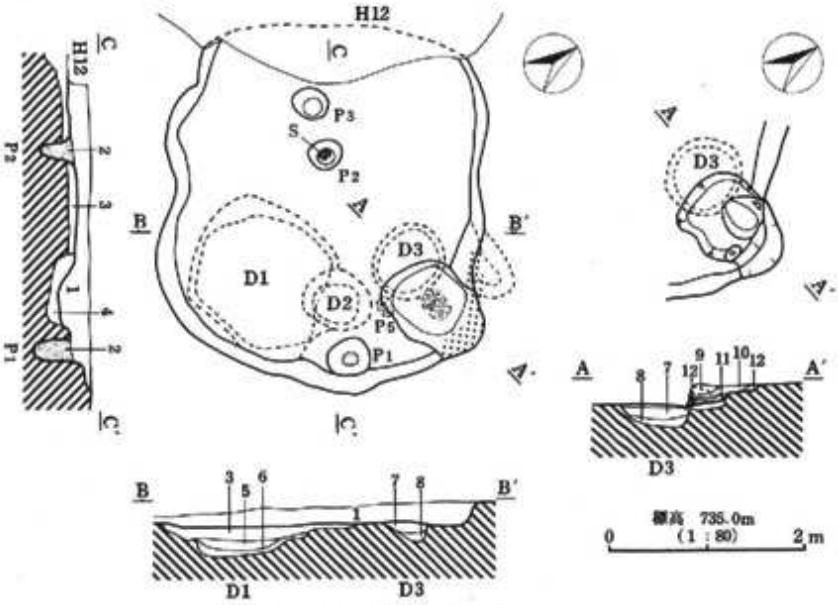
2）H13号住居址

遺構

H12号住居址の南東にあって北壁を切られてない。Ｉく－６グリットにある。南北に長軸を持つが北壁を壊されてない。３.２m 前後を測り、短軸2.8m を測る。隅丸長方形を呈す。壁残高は20cmである。主軸方位Ｎ－50°－Ｗを指す。カマドは南東コーナーにある。

H13土層説明

1　黒色土層(10YR２／１)
　小石・炭化物を含む。
2　黒褐色土層（10YR２／２）
　砂質。しまりなし。柱痕。
3　黒褐色土層(10YR２／3)
　地山の灰黄褐色土に黒色土含む。
4　黒褐色土層(10YR２／３)
　３層より明るい。
5　黒褐色土層(10YR２／３)
　灰黄褐色土ブロック・炭化物・焼土粒子含む。
6　黒褐色土層(10YR２／２)
　灰黄褐色土ブロック含まない。
7　黒褐色土層(7.5YR２／２)
　焼土・炭化物粒子含む。
8　黒褐色土層(7.5YR３／１)
　炭化物粒子主体層。灰・焼土も含む。
9　にぶい黄褐色土(10YR４／３)
　カマド構築粘土崩壊層。
10　暗褐色土（10YR３／３）
　炭化物含む。
11　暗赤褐色土(2.5YR３／３)
　焼土。
12　にぶい赤褐色土(５YR４／４)
　焼け込んだ土。



第51図　H13号住居址実測図

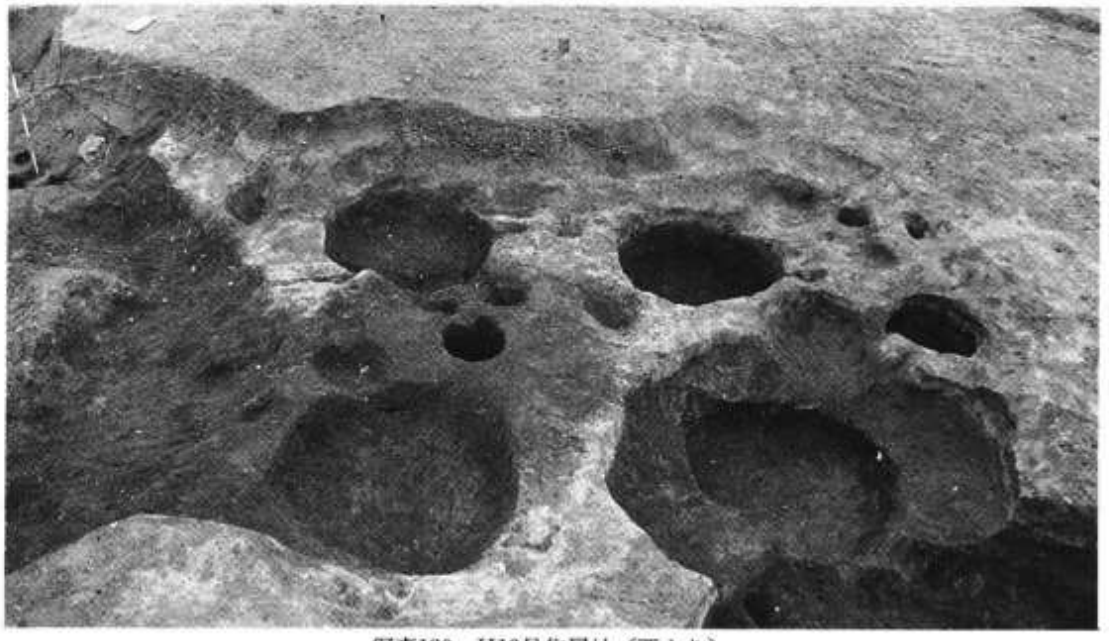


写真120　H13号住居址（西より）

写真121　H13号住居址カマド（正面より）

写真122　H13号住居址カマド（南より）

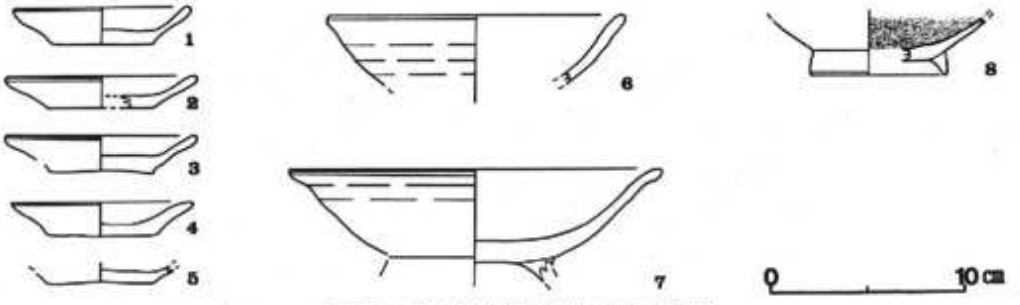
写真123　H13号住居址カマド掘り方断面

写真124　H13号住居址カマド掘り方

床面は黒褐色土層で貼り床し、いくらか締まっていた。床下に土坑が３個あり、DIは南西にあり１辺140cmの隅丸長方形を呈し、深さ28cmを測る。覆土は炭化物・焼土を含む。Ｄ２は南中央にありＤ１を切っている。長径72cm、短径56cmの楕円形で深さ32cmを測る。Ｄ３はカマド焚き口床下にあって、径80cm深さ24cmの円形を呈し、覆土には炭化物粒子を主体に、灰・焼土があった。柱穴は長軸方向の南北に２本に配され、南壁下と北寄りにある。カマドは長さ112cm幅80cmを測る。カマドの脇北側に粘土が貼ってあり、旧カマドの煙道跡があった。

遺物　土器960gが出土し、須恵器はなく、灰釉陶器は椀・長頸壺片がある。土師質の小皿・椀類が主体で、厚手の外面ヘラケズリの甕片もある。

H12住と時間差を感じないが、重複関係からは少し古い時期が設定される。



第52図　H13号住居址出土遺物実測図

3）H14号住居址

遺構

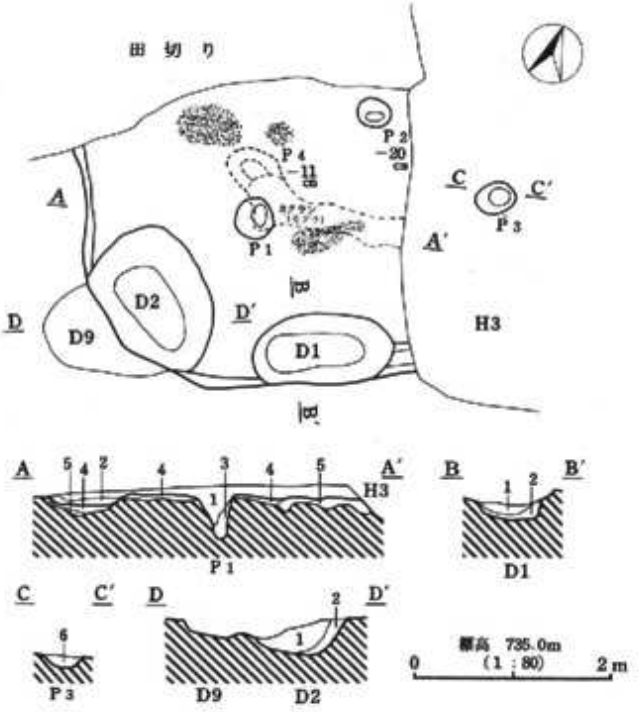
H12号住居址の西にあって、東半分はH12号住居址に、北半分は田切りにより壊され、南西隅のわずか1／4が残っているにすぎない。壁残高は12cmを測る。主軸はN－67　－Wで西に大きくふれている。

床面は締まりがあり、灰白色のシルト質土で貼り床している。床は目立った掘り方はなくタタキの床に貼り床土がわずかに見られるものである。

主柱穴はP1とP3で径32・40cm深さ44cmを測る。土坑は南壁下にD1と南東隅にD2がある。D1は長径144cm短径68cm深さ24cmの楕円形の土坑である。D2は上部をD9に切られる。長径152cm短径102cmを測る。

H14土層説明

1　黒褐色土層（10YR2／2）小石を多く含む。
2　暗褐色土層（10YR3／3）地山の灰黄褐色土含む。
3　黒褐色土層（10YR2／2）しまりなし。粒状。
4　黒褐色土層（10YR2／3）
　灰白色のシルト質土含む。しまりややあり。
5　黒褐色土層（10YR2／2）細かいパミス含む。
6　黒褐色土層（10YR3／2）ローム粒子多く含む。



第53図　H14号住居址実測図

写真125　H14号住居址（南より）

覆土は黒褐色土である。

カマドは検出されていないが床面には3カ所の焼土範囲が残っていた。

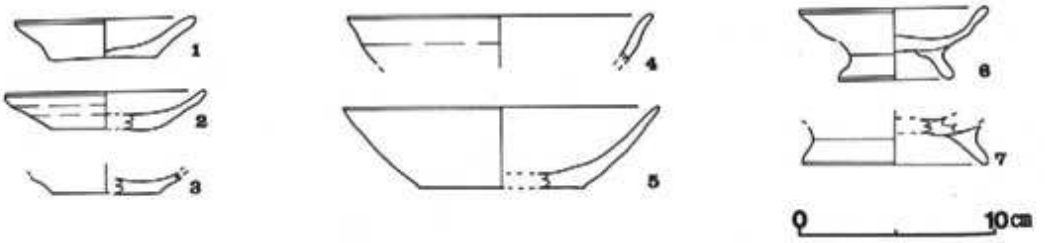
遺物

土器370gが出土している。土師質の小皿・杯・小椀・椀である。須恵器・灰釉陶器は小片が1片ずつあるのみである。

小皿の底径はやや大きくなり、器高は低い。ロクロ調整のままである。胎土は細かく粉末質である。杯は大きめの底径に比して器高が低く、調整はロクロ調整のままである。胎土は細かい砂粒を含むものである。小椀は長脚で、杯部の底が大きい器形である。胎土は粉末質の細かいものである。

甕は実測できなかったが、厚手で、外面ハケナデされる破片が2片ある。

H12号住居址に切られていることから、12世紀代の前半の時期かと推測される。



第54図　H14号住居址出土遺物実測図

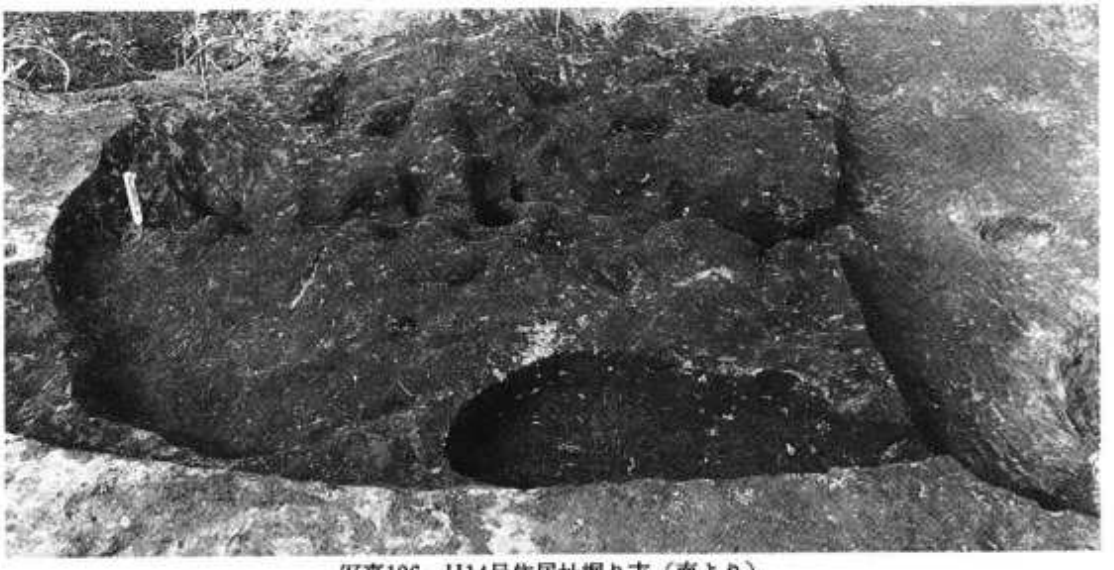


写真126　H14号住居址掘り方（南より）

4）H15号住居址

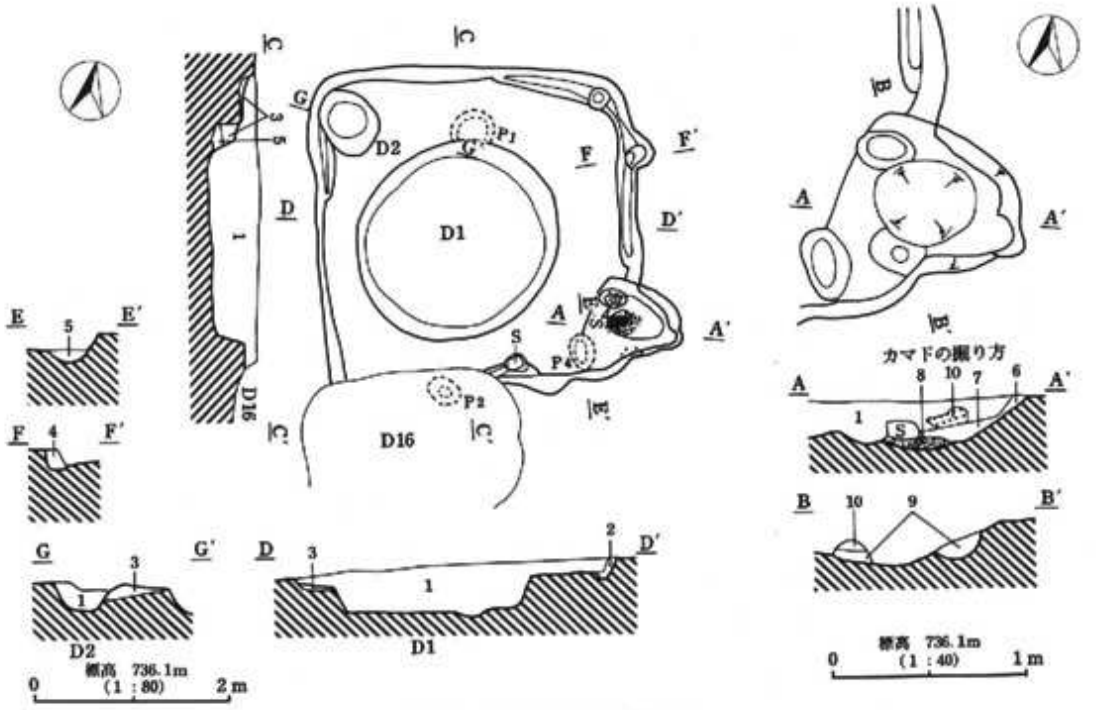
遺構

Ⅲ地区中央のHあ－7グリットにある。長軸を東西に持ち、3.12m×3.0mの方形の住居址である。主軸方位はN－15′－Wを測る。南東コーナーにカマドをもつ。南西をD16に切られる。

床面は中央に径2.08mの円形土坑があり、周辺部を除いてない。中央の土坑は貼り床されて

写真127　H15号住居址（西より）

写真128　H15号住居址掘り方（西より）



第55図　H15号住居址実測図

15土層説明

1　暗褐色土層（10YR 3／3）
　黒色土ブロック・ロームブロック含む。
2　暗褐色土層（10YR 3／4）
　ローム粒子多量に含む。
3　黒褐色土層（10YR 3／2）
　貼り床。黒色土・ロームブロック含む。
4　黒褐色土（10YR 2／3）
　柱痕。
5　黒褐色土（10YR 2／3）
　黒色土・ロームブロック φ2cm 混入層。しまっている。
6　にぶい黄褐色土（10YR 5／4）
　ローム主体。
7　黒褐色土層（10YR 2／2）
　炭化物含む。
8　にぶい赤褐色土層（5YR 4／4）
　焼土層。
9　黒褐色土層（10YR 3／2）
　多量の灰白色粘土ブロックを含む。
10　灰白色土層（10YR 8／1）
　粘土。

いない記録になっている。

柱穴は周溝内に小ピットがある。掘り方では南北方向にP1・P2があり、主柱穴であったと考えられる。

写真129　H15号住居址カマド（西より）

写真130　H15号住居址カマド

土坑は中央の径2.08mの土坑と、北西のD2号土坑がある。D2は長径68cm深さ24cmを測る。覆土は暗褐色土である。

カマドは南東にあり、角よりは少し北にずれる。住居址壁より48cm突き出る。長さ96cm幅104cmを測る。袖には灰白色粘土、火床部には支脚石が残っていた。

遺物

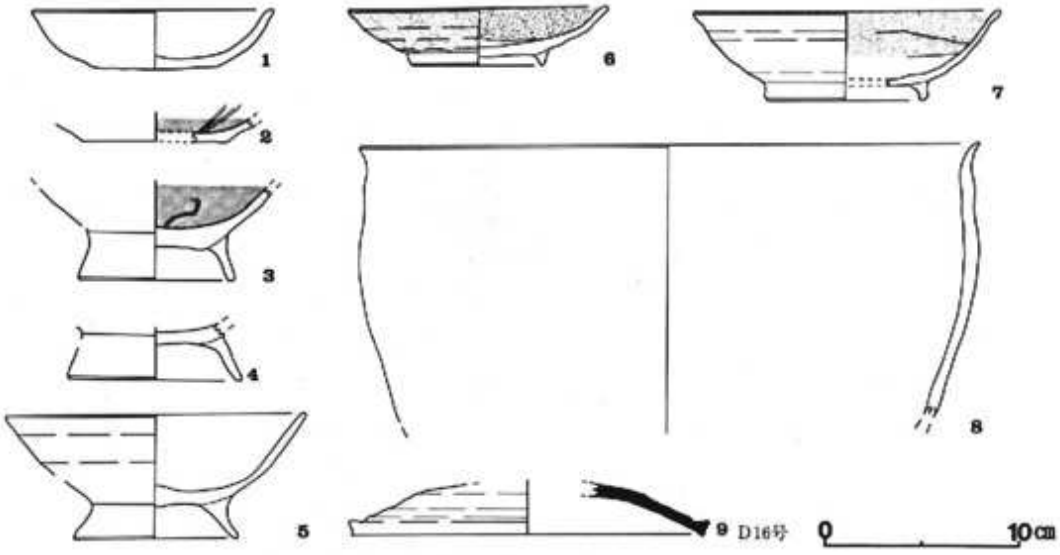
土器1.24kgが出土している。土師器ロクロ甕片・杯・椀があり、8の甕は胴部ハケナデの口径31cmを測るものである。須恵器は軟質の高台付き椀・杯蓋片がある。灰釉陶器は皿・椀がある。

土師器の杯1は内面にわずかなミガキ調整をするだけである。2は内面に暗文様にミガキを施し黒色処理している。椀は長脚で、内面にやはり暗文様のミガキ黒色処理を施すものと、ロクロ調整のままのものとがある。胎土は粉末質に近くなるが、砂粒を含んでいる。

甕形土器は口縁が少し外反するだけで、胎土は砂質である。

灰釉陶器皿は高台断面が三角形で短い。椀形土器は浅く、口縁部外反し、高台断面形はまだ、「三日月」形をいくらか量している。

これらより、時期は10世紀後半になろう。

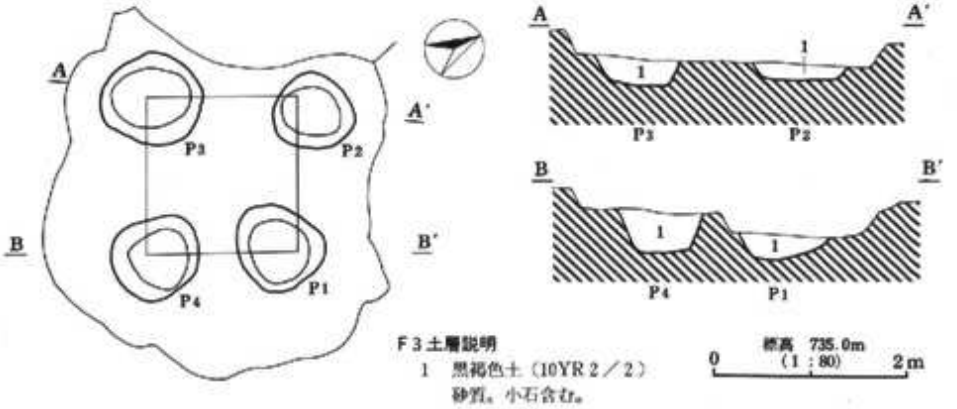


第56図　H15号住居址・D16号土坑出土遺物実測図

2、掘立柱建物址

1）F３号掘立柱建物址

H13号住居址と重なり、H13号住居址の付属施設の可能性もあるが、並んだので出して、掘立柱建物址とした。南北152cm東西136cmに配される。径80～104cm深さ40～64cmを測る。覆土は黒褐色土で砂粒を含む。



第57図　F３号掘立柱建物址実測図

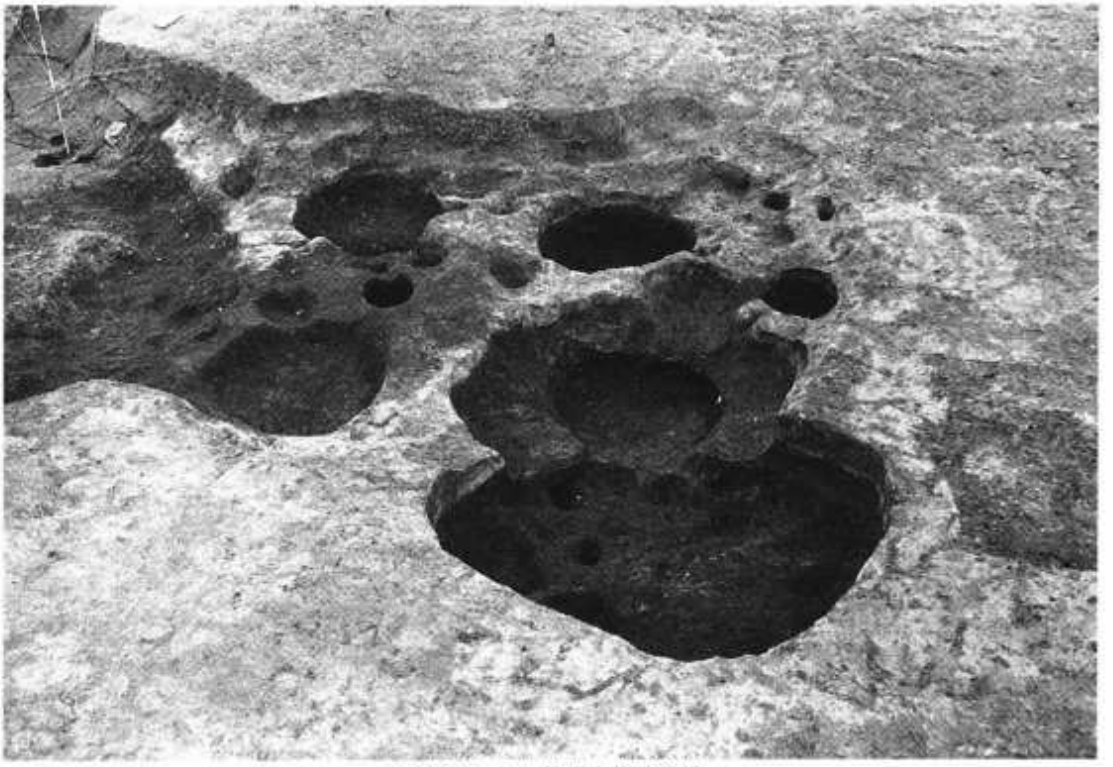
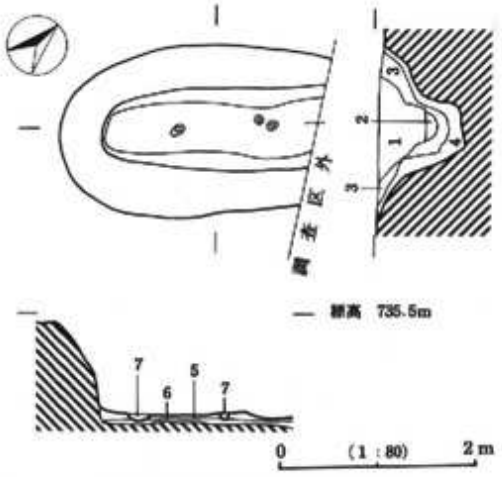


写真131　F３号掘立柱建物址

3、土坑

1）縄文時代陥し穴

D8号陥し穴　Ⅲ区中央のLあ－6グリットにある。東端は調査区外で長径はわからない。短径168cm深さ92cmを測る。底面は小ピットが3個あるが浅いもので、杭跡は検出されなかった。



第58図　D8号陥し穴実測図

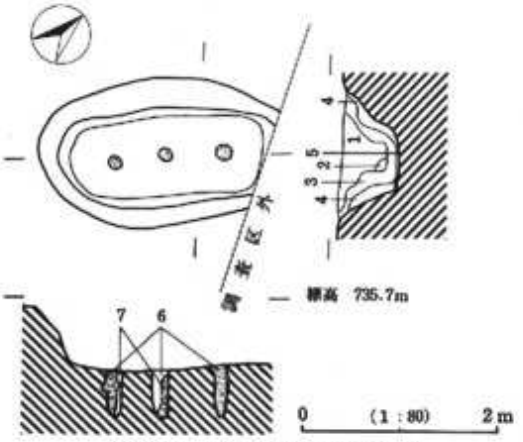
写真132　D8号陥し穴土層断面

D8土層説明

1　黒色土層（10YR1.7／1）
　φ5mm～1cm大のパミス含む。
2　黒褐色土層（10YR3／2）
　黒色土に多くのローム粒子含む。
3　黒褐色土層（10YR2／2）
　ローム粒子・パミス含む。
4　褐色土層（10YR4／6）
　ローム主体。
5　にぶい黄褐色土（10YR5／3）
　ローム主体。
6　褐色土層（10YR4／6）
　ローム主体。
7　にぶい黄褐色土（10YR5／4）
　粒子緻密なローム。

写真133　D8号陥し穴（北より）

D9号陥し穴　D8より少し南のLあ－7グリットにある。長径240cm短径148cmの長楕円形で、底面には杭痕が3個あり、径12～14cm深さ48～52cmのピットに杭痕が良好に観察された。



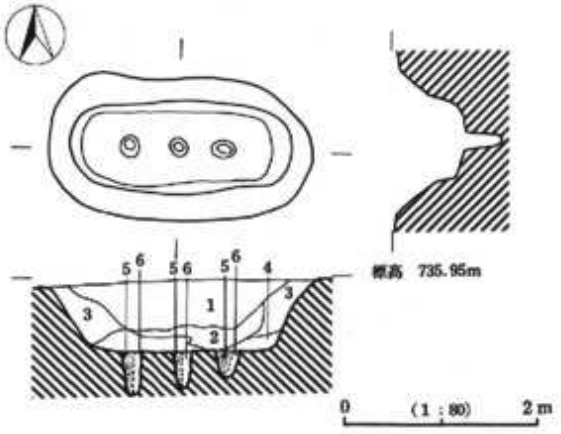
第59図　D9号陥し穴実測図

D9号土層説明

1　黒色土層（10YR1.7／1）φ1cmのパミス含む。
2　黒褐色土層（10YR2／2）ローム粒子含む。
3　暗褐色土層（19YR3／3）ローム粒子多く含む。
4　褐色土層（10YR4／6）ローム主体。
5　暗褐色土層（10YR3／4）くすんだローム。
6　黒褐色土層（10YR2／2）杭状痕。
7　にぶい黄褐色土層（10YR5／4）

写真134・135・136　D9号陥し穴

D10号陥し穴　Ｏく－２グリットにあり、調査区南側にある。長径268cm短径144cm深さ68cmを測る。底面には径20cmのピットが３個あり深さ28～48cmを測る。



第60図　D10号陥し穴実測図

D10土層説明

1　黒色土層（10YR1.7／1）粒子緻密。パミス含む。
2　黒色土層（10YR1.7／1）ローム ブロック、褐色土ブロック混入。
3　暗褐色土層（10YR３／３）ローム粒子多く含む。
4　黒褐色土層（10YR２／２）ローム粒子含む。
5　暗褐色土層（10YR３／４）杭状痕。
6　にぶい黄褐色土層（10YR５／４）ローム土体。

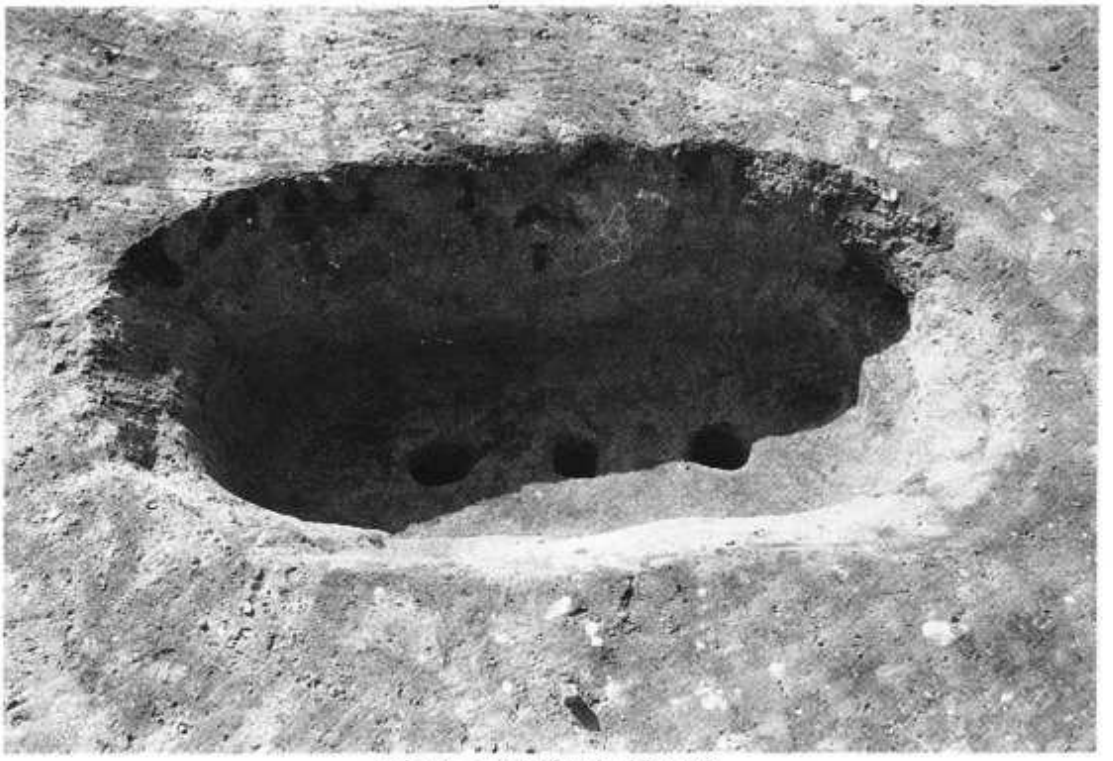
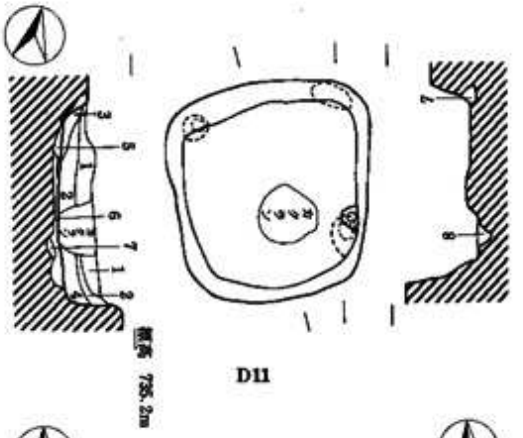


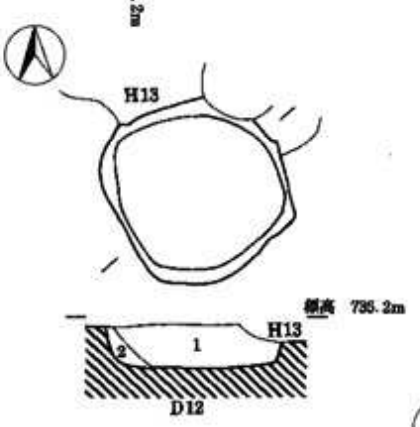
写真137　D10号陥し穴（北より）

2）D11～D17号土坑

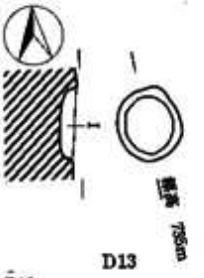
D11号土坑　Ⅲ区北西のＩけ－５グリットにあり、H12号住居址に北側を切られている。底面が締まり、掘り方があることなどからは中世に見られるような竪穴建物址と同様なものであろう。南北2.2m 東西2.0m の隅丸方形を呈する。

D11土層説明
1　黒褐色土層（10YR２／２）
小石含む。パミス粒含む。わずかに灰白色粘土粒子（10YR８／１）を含む。
2　黒色土層（10YR２／１）小石含む。
3　黒褐色土層(10YR２／２)灰白色粘土粒子多く含む。
4　黒褐色土層（10YR３／２）砂利層。
5　黒褐色土層（10YR２／３）灰白色粘土含む。
6　黄褐色土層（10YR４／２）
灰白色粘土を大きいブロックで含む。
7　にぶい黄褐色土層（10YR４／３）ロームブロック含む。
8　黒色土（10YR２／１）　細かいパミス含む。

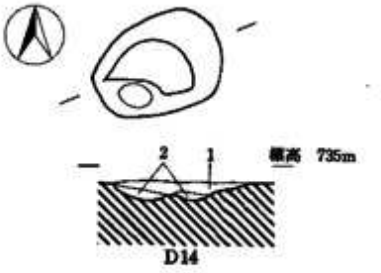




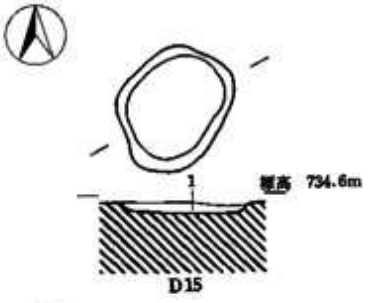
D12
1　黒褐色土層（10YR２／３）
小石含む。炭化物粒子含む。
2　黒褐色土層（10YR２／３）
白色砂粒・小石含む。



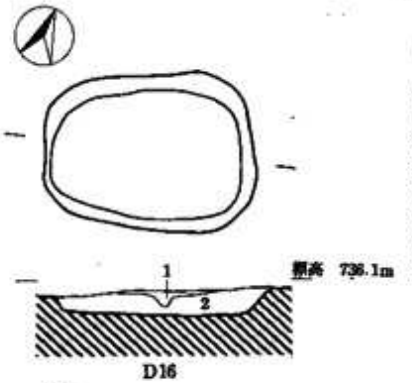
D13
1　黒褐色土層（10YR３／２）
小石含む。



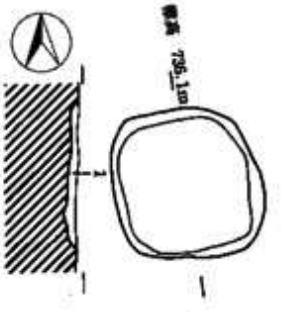
D14
1　黒褐色土層（10YR２／２）
小石含む。粘土・炭化物粒子含む。
2　黒褐色土層（7.5YR２／２）
にぶい黄褐色（10YR４／３）シルト質砂含む。



D15
1　黒褐色土層（10YR３／２）



D16
1　黒褐色土層（10YR２／２）
粒子緻密。ローム粒子含む。
2　黒褐色土層（10YR２／３）
小石含む。



D17
1　黒褐色土層（10YR２／２）
ローム粒子含む。

0　(1：80)　2m

第61図　D11～D17号土坑実測図

D12号土坑　H13号住居址に北側上面を切られている。184×172cmの隅丸方形を呈し、深さ44cmを測る。覆土は黒褐色土である。出土遺物には土師器杯片がある。

D13号土坑　調査区西端のＩけ－６グリットにある。径68cmの円形を呈し、深さ24cmを測る。覆土は黒褐色土である。出土遺物は土師質小皿と厚手の甕片がある。

D14号土坑　Ⅲ地区北西端にあり、H14号住居址を上面で切っている。覆土は黒褐色土で小石と共に、焼土・炭化物粒子も含んでいる。遺物は土師質の椀・杯片、灰釉陶器の広口瓶口縁部片がある。

写真138　D11号土坑（北より）

写真139　D11号土坑掘り方（南より）

写真140　D12号土坑（南より）

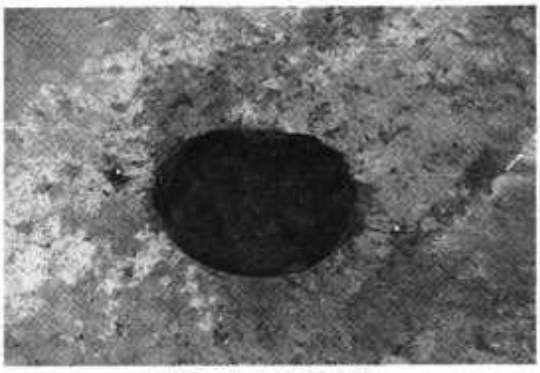


写真141　D13号土坑

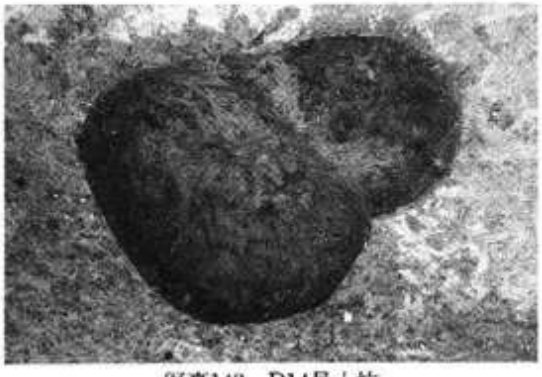


写真142　D14号土坑

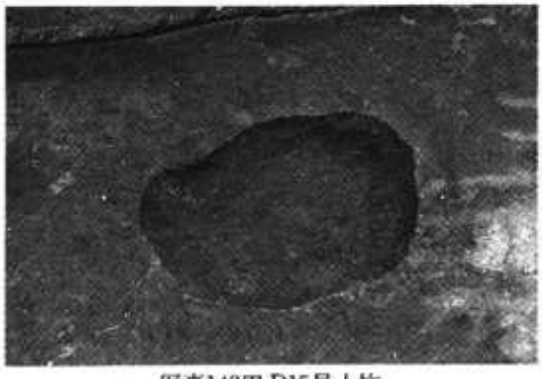


写真143Ⅲ D15号土坑

写真144　D16号土坑（南より）

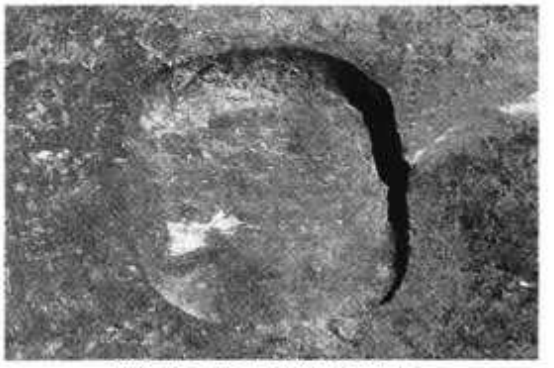


写真145　D17号土坑（西より）

D15号土坑　やはりⅢ地区北西のＪあ－10グリットにある。長径134cm、短径108cmの不整楕円形を呈し、深さは12cmを測る。覆土は黒褐色土である。

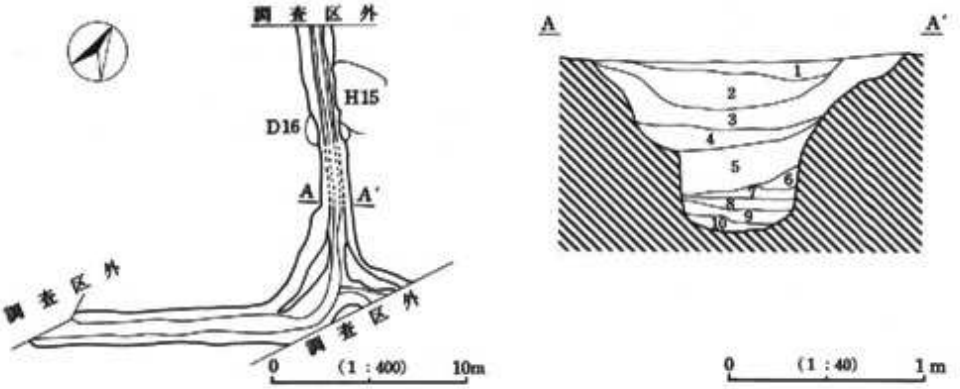
D16号土坑　調査区中央のＨあ－９グリットにある。212cm×160cmの隅丸長方形の土坑である。深さは24cmを測る。覆土は黒褐色土である。遺物は小皿・須恵杯蓋・甕形土器の破片がある。甕は厚手の底部破片が２片ある。

D17号土坑　Ⅲ区中央のＧこ－９グリットにあり、152×140cmの隅丸方形を呈す。深さは12cmを測る。覆土は黒褐色土である。

4、溝状遺構

1）M３号溝状遺構

Ⅰ地区でＭ１号溝状遺構が南東に60m程流れ、北東に直角に曲がる。それをＭ３号溝状遺構とした（Ⅴ地区）。これがⅠ地区から北西方向に80m流れⅢ地区に続いている。Ⅲ区ではさらに北西方から流れてくるＭ５号溝状遺構と合流し、北西に曲がっている、幅1.6m深さ86cmを測る大溝になる。



第62図　Ｍ３号溝状遺構実測図

Ｍ３土層説明

1　暗灰黄褐色土層（2.5YR４／２）シルト質土
2　暗褐色土層（10YR３／４）砂質。
3　黒褐色土層（10YR２／３）小石含む砂質。
4　暗褐色土層（10YR３／３）砂利層。
5　黒褐色土層（10YR２／３）細かい砂の層。
6　褐色土層（10YR４／４）ローム粒子を含む。
7　暗褐色土層（10YR３／３）砂利層。
8　黒褐色土層（10YR２／３）細かい砂の層。
9　明黄褐色土層（10YR６／６）ローム。パリパリとかたい。
10　暗褐色土層（10YR３／３）砂利層。

写真146　Ｍ３号溝状遺構土層断面図（南より）

写真147　M３号溝状遺構（南より）

写真148　M３号溝状遺構（東より）